

煙感知器詳細

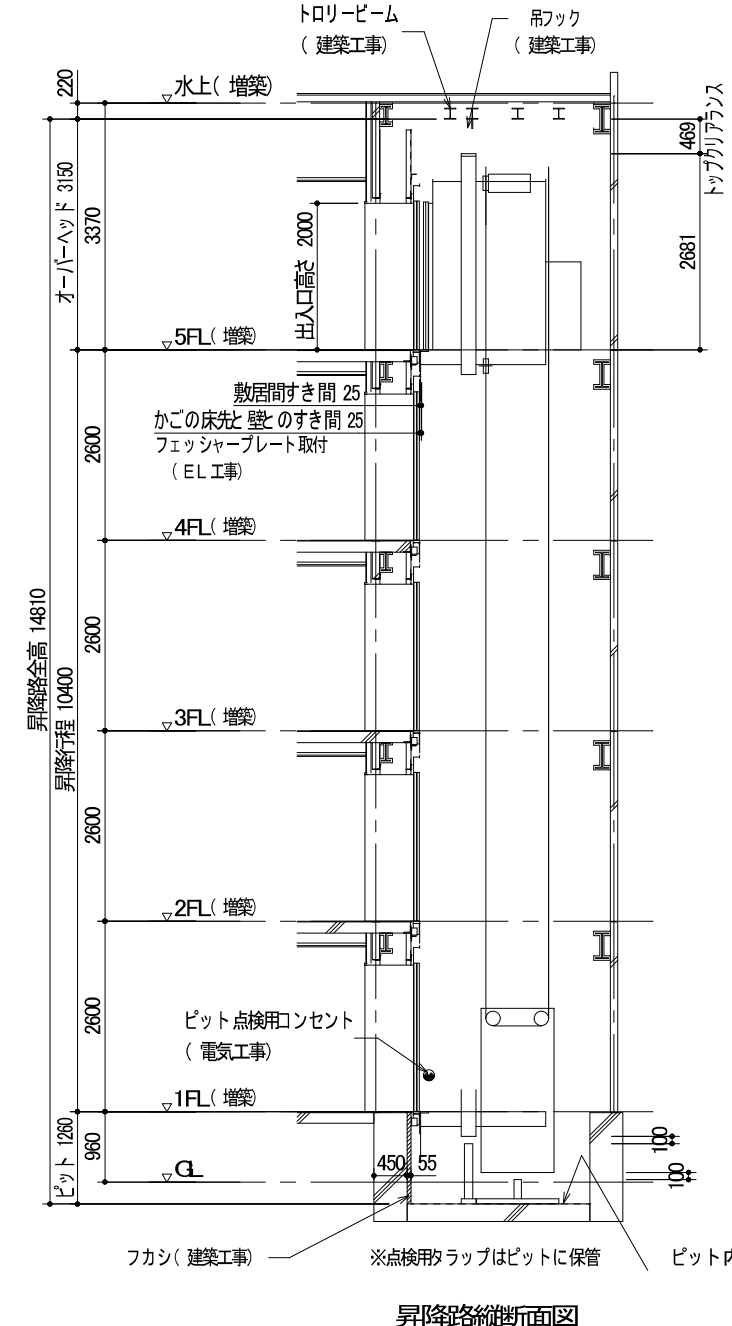
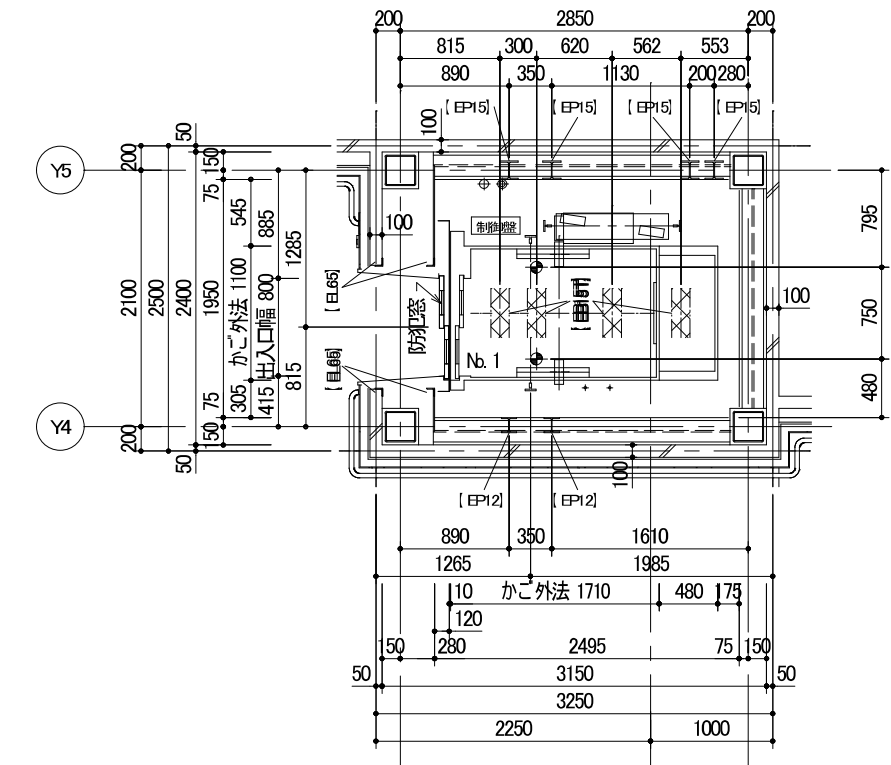
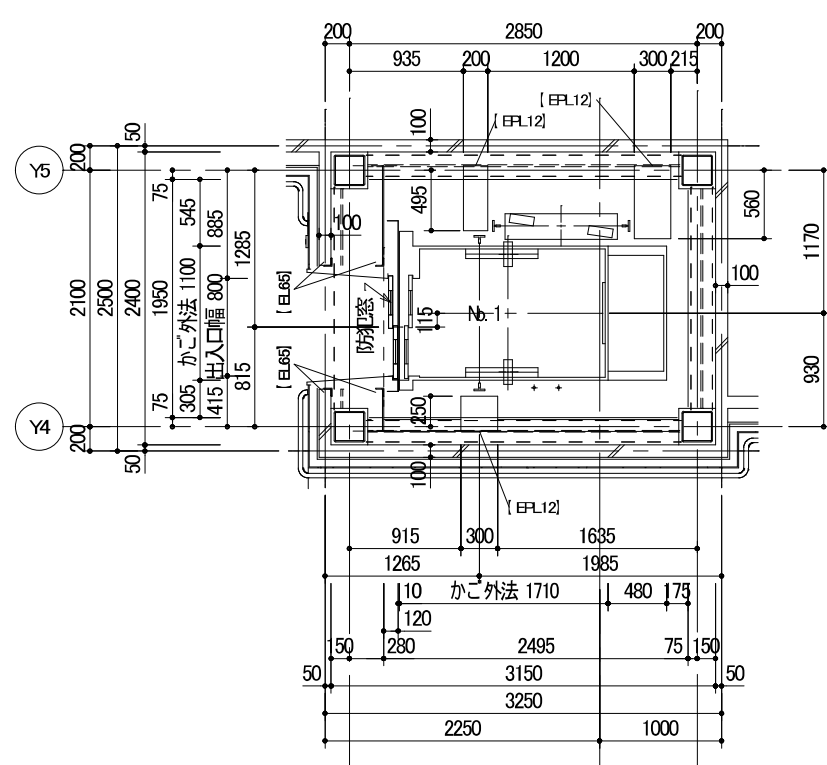
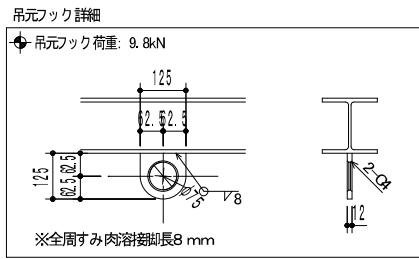
施工装置付点検扉
 1. 5mm以上の鋼板製(電気工事)
 リミットスイッチ付(エレベーター工事)

昇降路頂部に煙感知器を設置する場合は
 外部に引き出した状態で点検可能な構造
 とする。
 屋外の場合は、防水形点検扉とする。

点検ボックスは下記エレベーター昇降路専用用品として下さい。

- ・ホーチキ (KUS-1C-W)
- ・能美防災 (FXS J001A+U)
- ・ニッタン (ND-T-G)
- ・パナソニック (BA95351+BA95381H)

製品の型番は、仕様変更などで変更・廃止されている場合があります



●	ピット点検用コンセント	(電気工事)
■	T. C保護金網	(エレベーター工事)

レール反力リスト(地震時作用荷重) No. 1

位置	側面	軸方向	Px (kN)	Py (kN)
かご側	一般階		3.70	1.90
	最上階		3.60	2.30
おもり側	一般階		5.70	2.90
	最上階		8.30	5.40

上記 荷重による柱及び梁のたわみは5mm以下となるよう選定下さい。

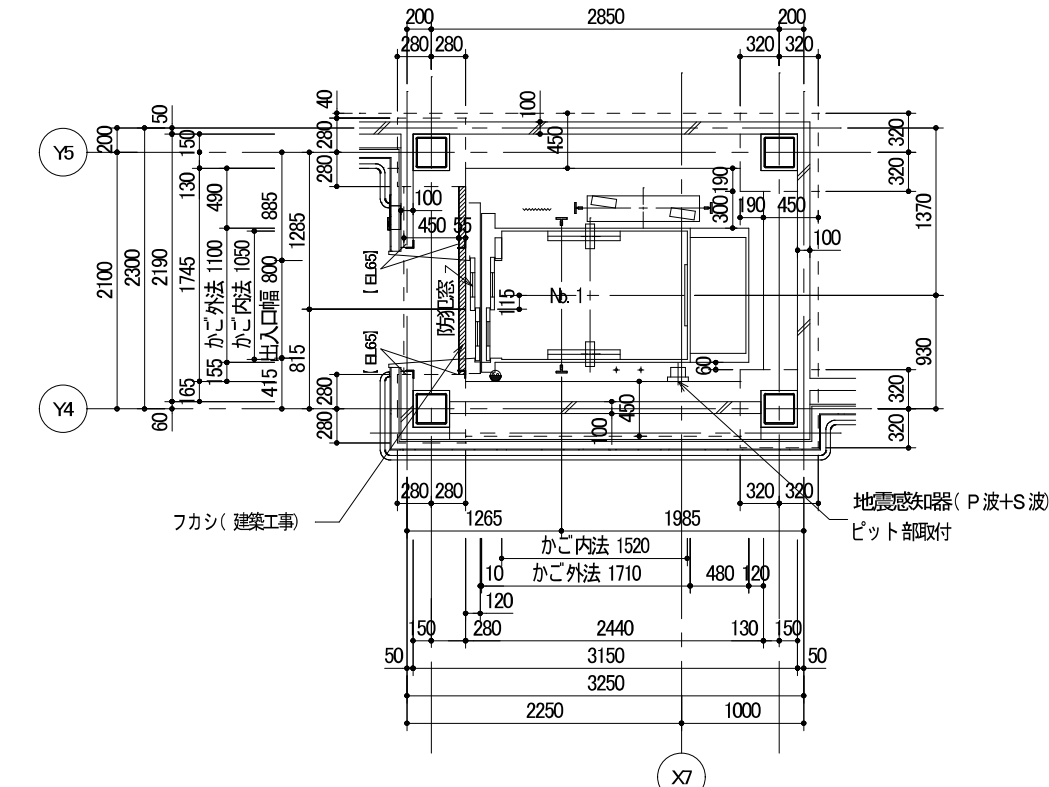
◆	吊元フック	(建築工事)
◆	電源引き込み(受電盤への接続)	(電気工事)
◆	動力・照明・接地線	(電気工事)
◆	最上停止階 L-1350mm 引出長さ 3m	(電気工事)
◆	直線引き込み	(電気工事)
◆	インターホン配線・電話線	(電気工事)
◆	最上停止階 L-650mm 引出長さ 3m	(電気工事)

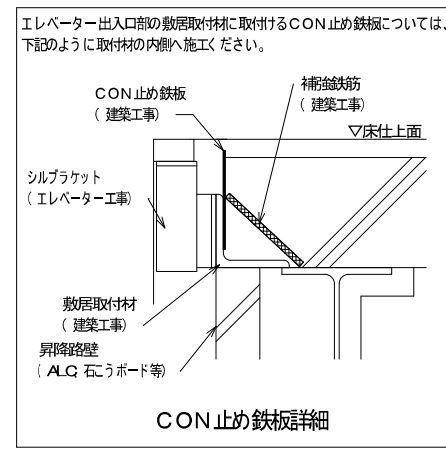
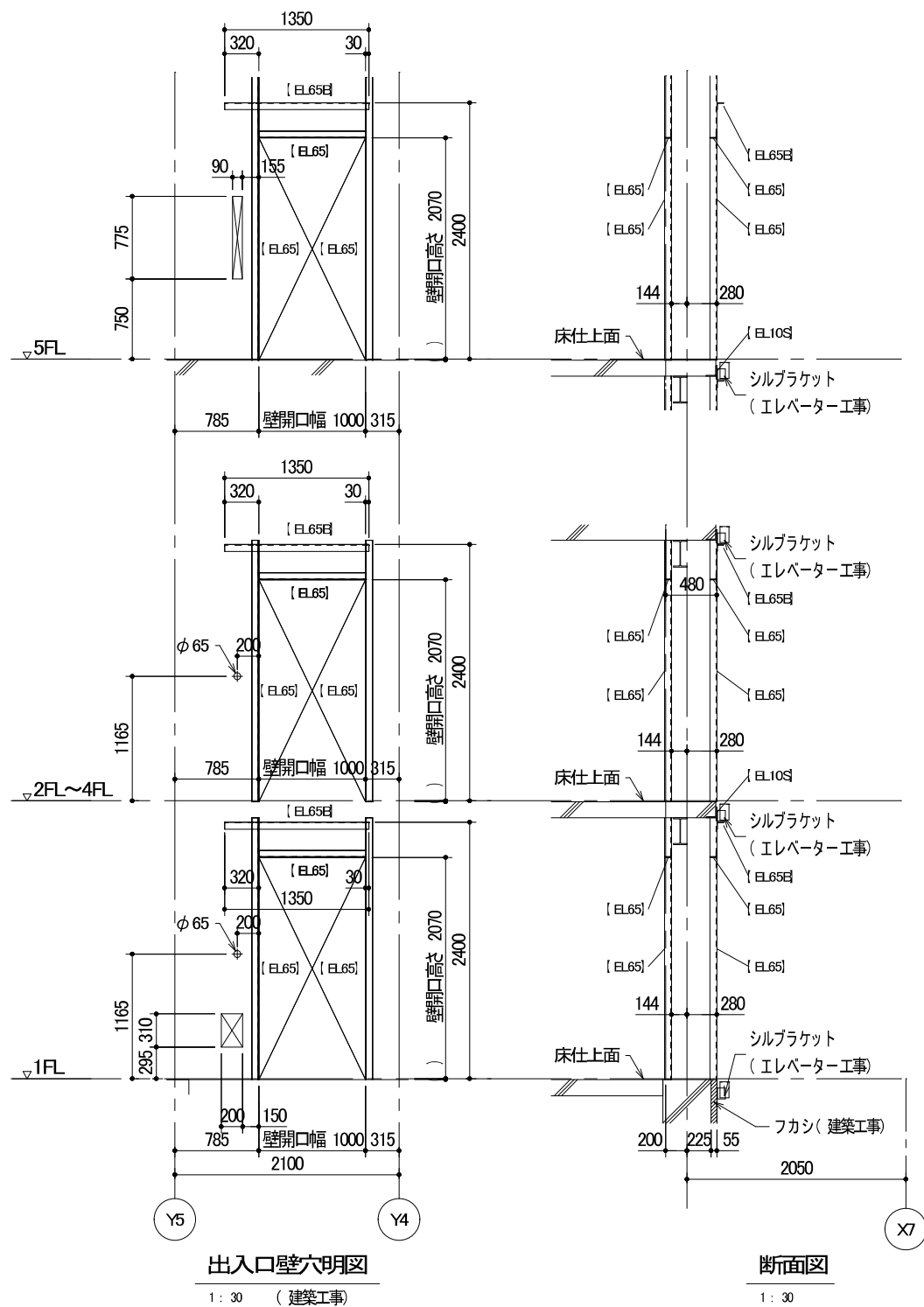
鉄骨部材記号表 (建築工事)

部材記号	部材用途	部材サイズ
EPL12	ファスナープレート	FL-12
EP15	レール支持柱	H-150x150x7x10
EP12	レール支持柱	H-125x125x6.5x9
EL65B	バックアングル取付材	L-65x65x6
EL65	三方棒取付材	L-65x65x6
EL10S	敷居取付材	L-100x100x10
ES19	吊元(荷重9.8kN用)	t12(φ75穴付)
EB15T	トローリービーム	H-150x150x7x10

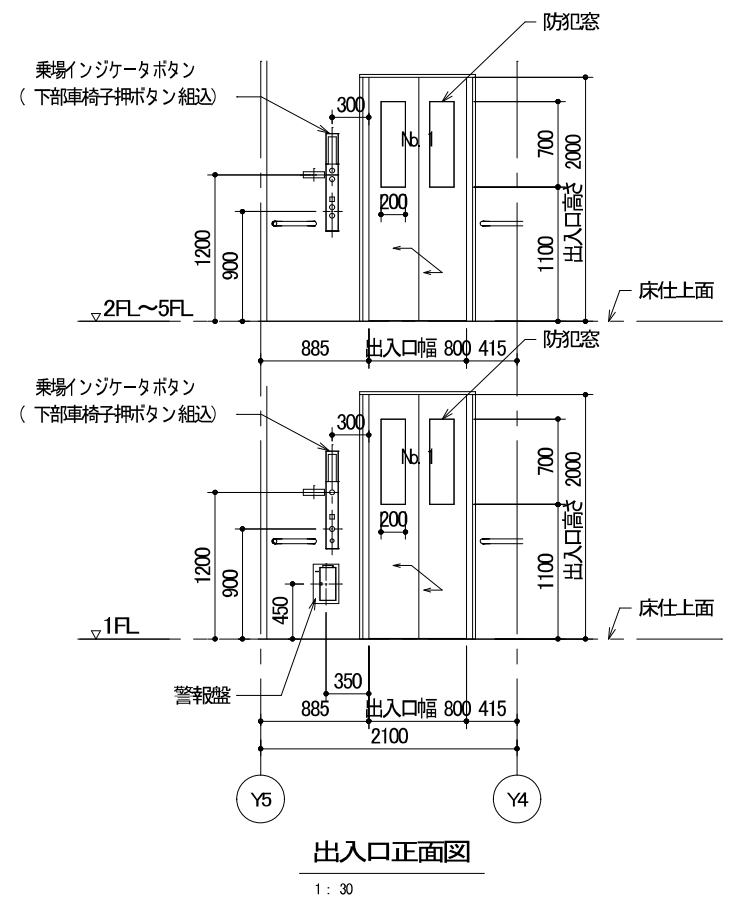
No. 1

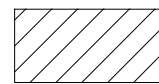
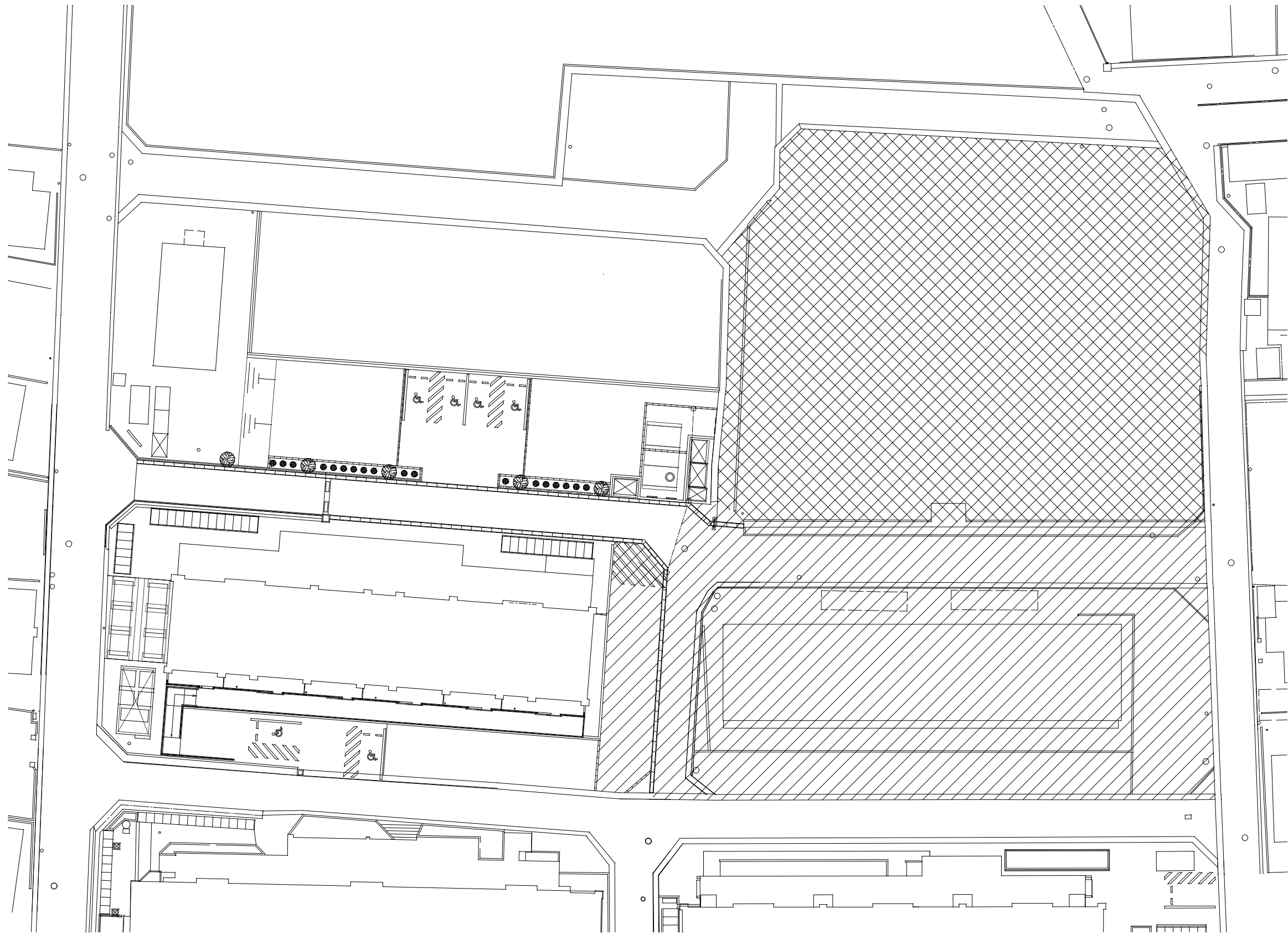
ピット反力	64.00 kN
ピット衝撃荷重	かご側 53.60 kN
	C/W側 43.40 kN



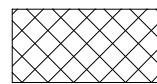


鉄骨部材記号表 (建築工事) 電匠図用		
部材記号	部材用途	部材サイズ
EL.65B	バックアングル取付材	L-65x65x6
EL.65	三方枠取付材	L-65x65x6
EL.10S	敷居取付材	L-100x100x10

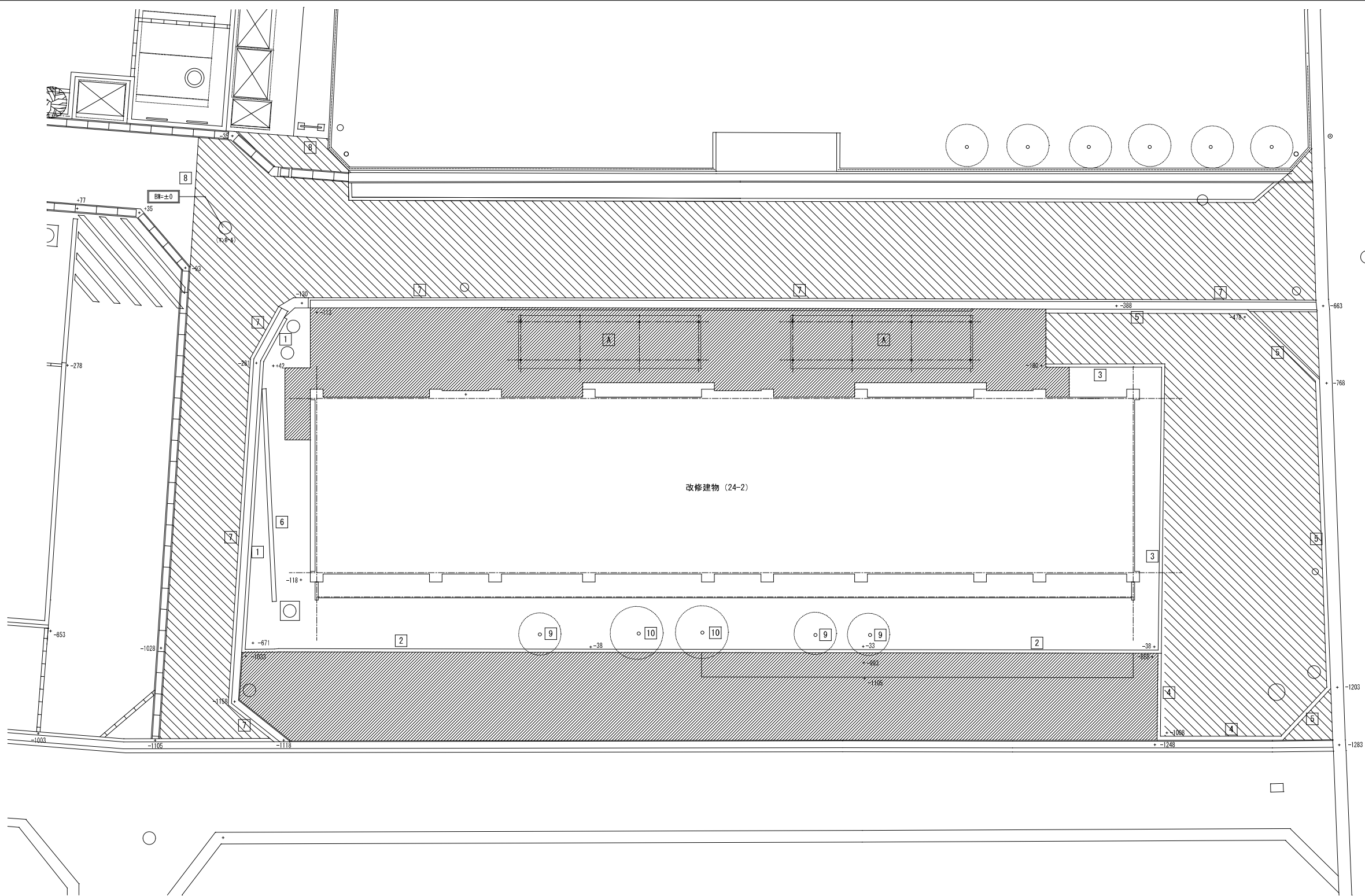






— 解体エリア:A



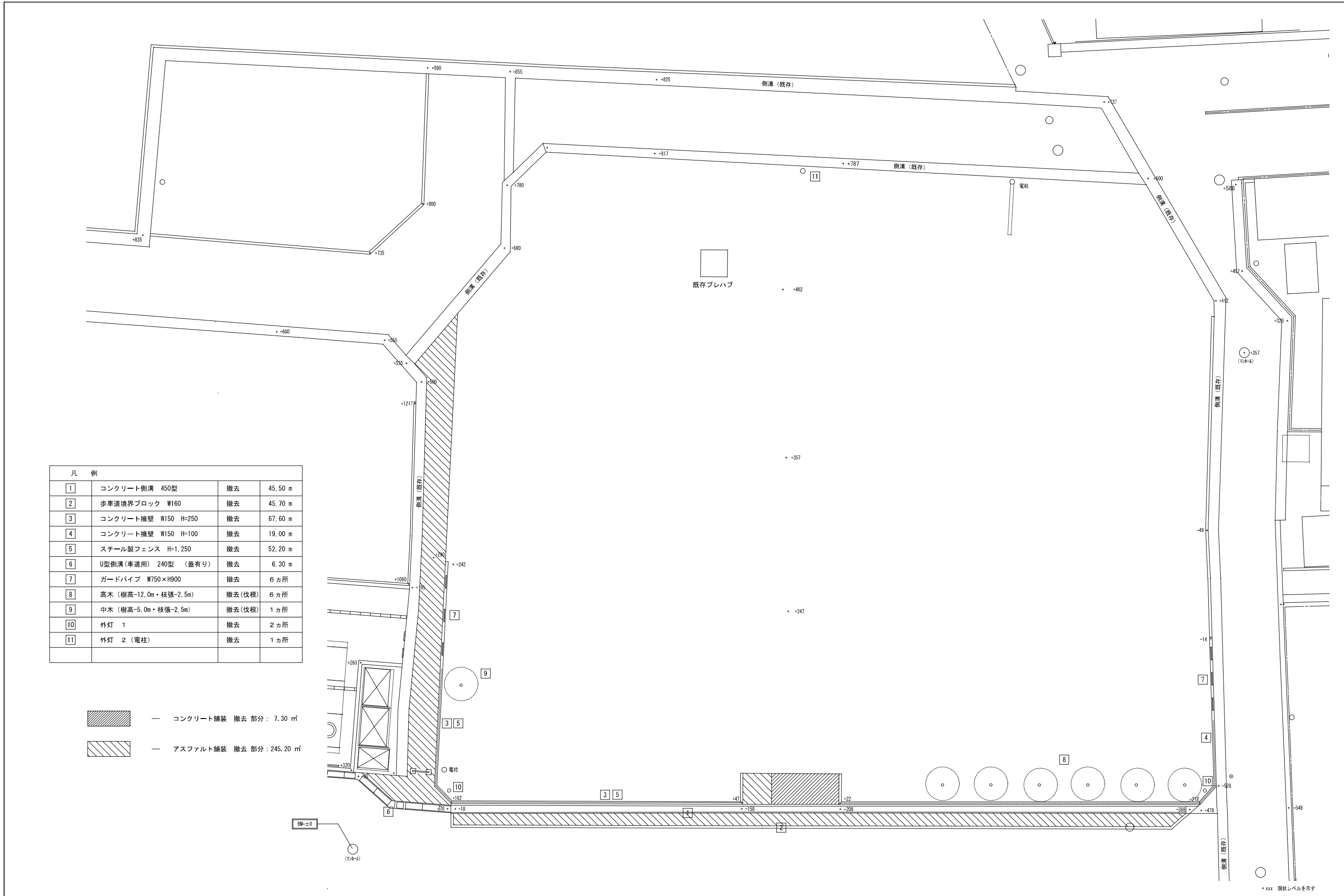
— 解体エリア:B




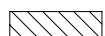
A	S造 自転車置場 8,400×2,000	撤去	2棟	8	カッター入れ	7.90m
1	コンクリート擁壁 W210 H=100~460	撤去	16.20 m	9	低木 (樹高-2.5m・枝張-2.0m)	撤去(伐根) 3カ所
2	コンクリート擁壁 W120 H=1000	撤去	43.50 m	10	低木 (樹高-2.0m・枝張-2.0m)	撤去(伐根) 2カ所
3	コンクリート擁壁 W120 H=200~900	撤去	19.30 m			
4	歩車道境界ブロック W160	撤去	13.40 m			
5	歩車道境界ブロック W190	撤去	28.90 m			
6	地先境界ブロック W150	撤去	10.50 m			
7	U型側溝(車道用) 360型 (蓋有り)	撤去	70.90 m			

 — コンクリート舗装 撤去部分: 139.10 m²
 — アスファルト舗装 撤去部分: 527.90 m²

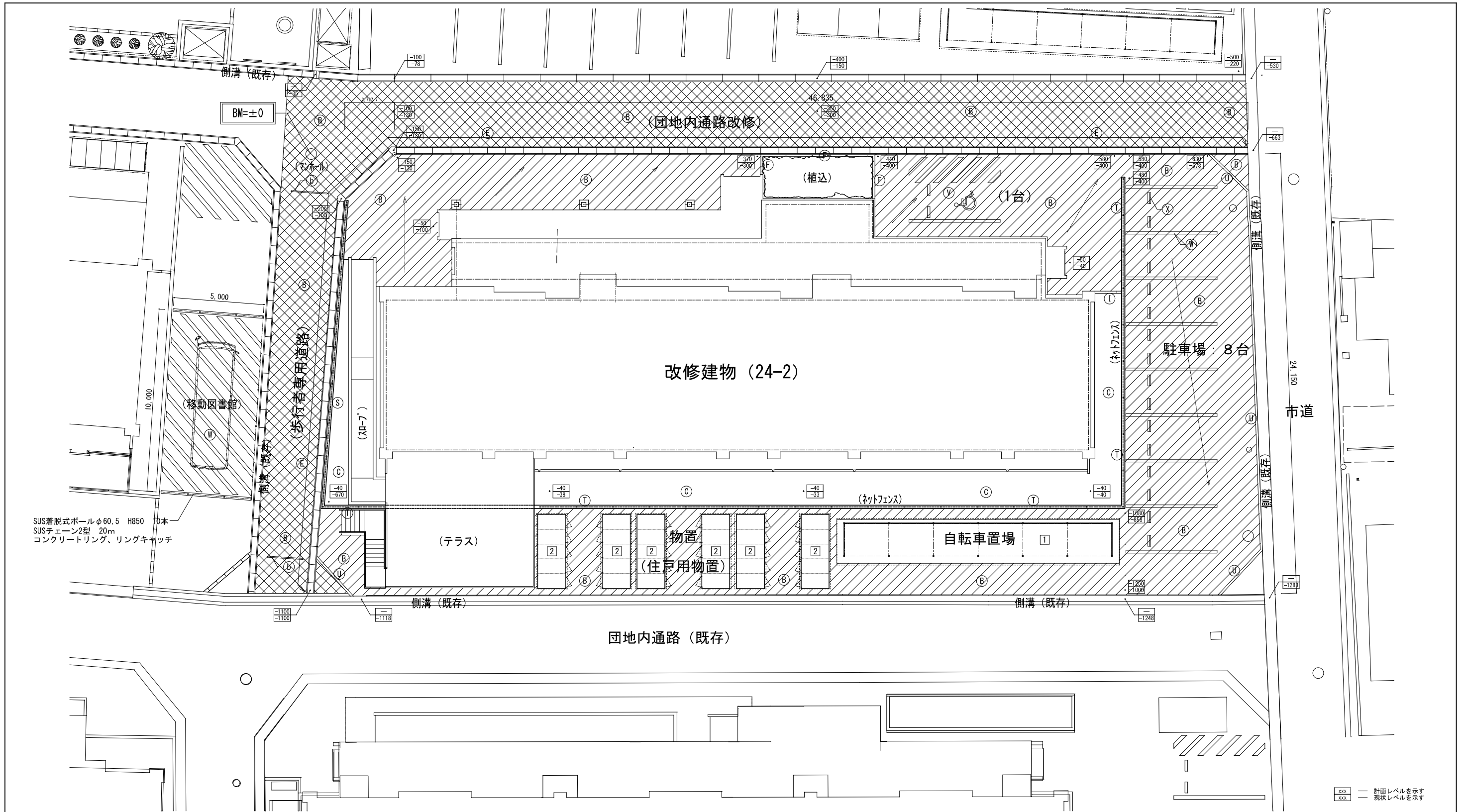
xxx 現状レベルを示す



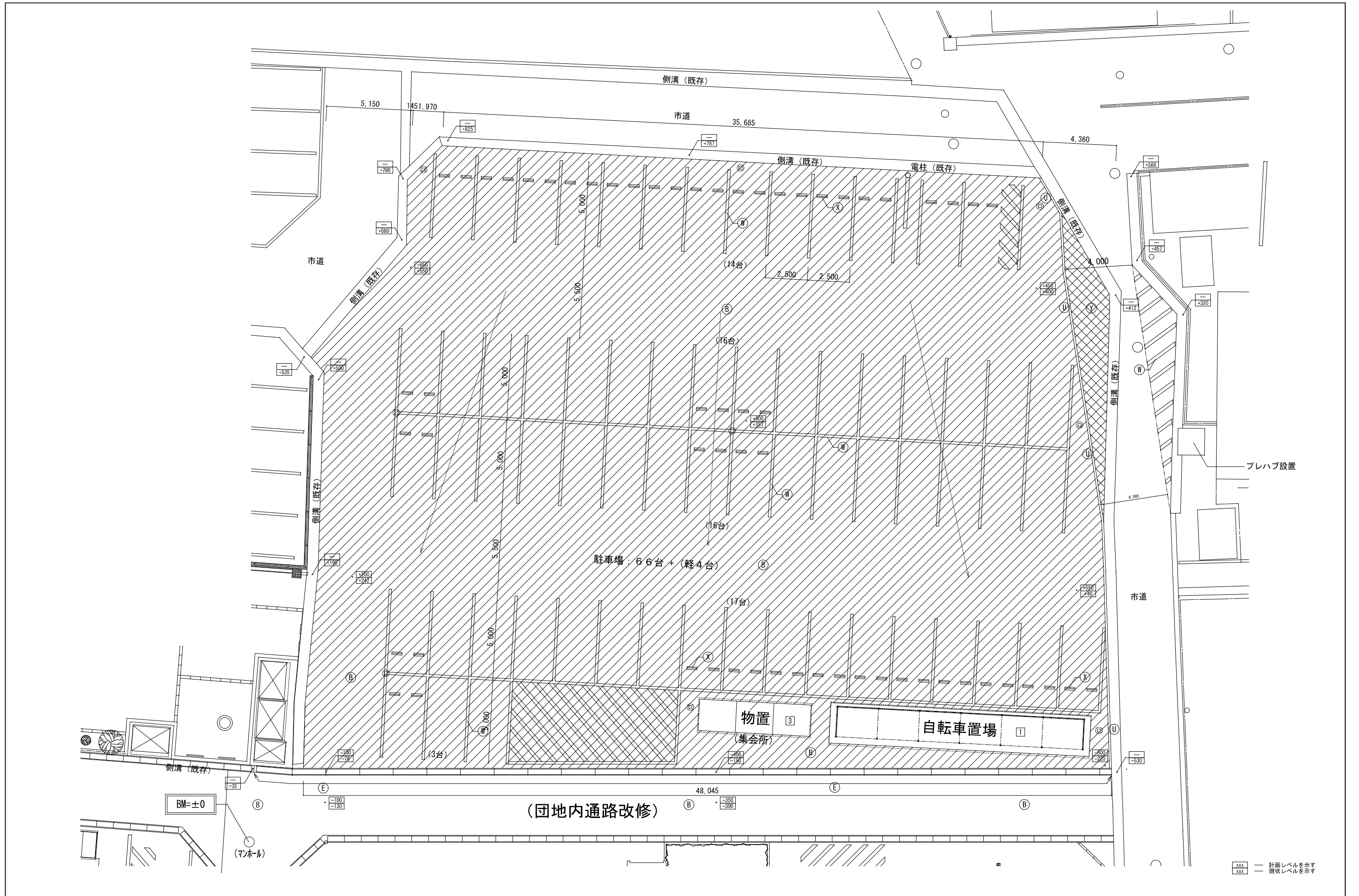
凡 例			
1	コンクリート側溝 450型	撤去	45.50 m
2	歩車道境界ブロック W160	撤去	45.70 m
3	コンクリート擁壁 W150 H=250	撤去	67.60 m
4	コンクリート擁壁 W150 H=100	撤去	19.00 m
5	スチール製フェンス H=1,250	撤去	52.20 m
6	U型側溝(車道用) 240型 (蓋有り)	撤去	6.30 m
7	ガードパイプ W750×H900	撤去	6カ所
8	高木 (樹高-12.0m・枝張-2.5m)	撤去(伐根)	6カ所
9	中木 (樹高-5.0m・枝張-2.5m)	撤去(伐根)	1カ所
10	外灯 1	撤去	2カ所
11	外灯 2 (電柱)	撤去	1カ所

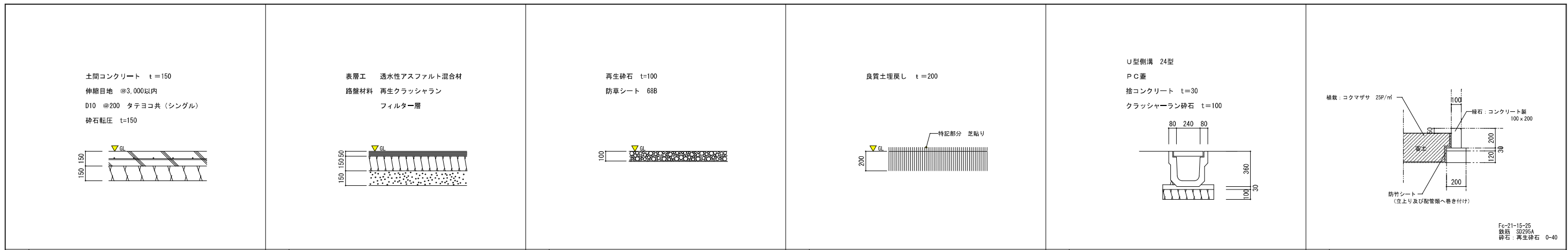
 — コンクリート舗装 撤去 部分: 7.30 m²
 — アスファルト舗装 撤去 部分: 245.20 m²

* XXX 現状レベルを示す

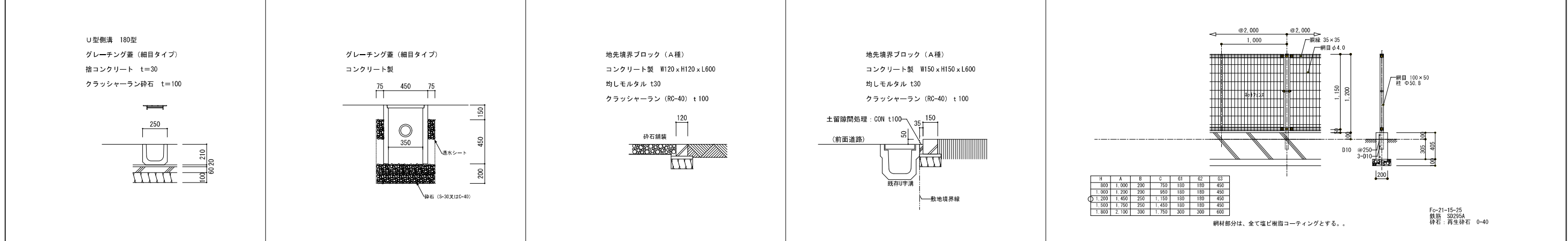


①	自転車置場	2,450 x 1,800	6連	2カ所	(E)	U型側溝(車道用) 24型 コンクリート蓋付	L=124m	(M)	コンクリート擁壁② + スチール製フェンス H=1200	L=13.7m	(U)	道路境界石ブロック W150	L=60.8m	(a)	ガードパイプ: スチール製 φ60.5 固定式(基礎共) W700 X H650	5カ所
②	ユニット式物置	811 x 1,512	5連	6棟	(F)	植栽 緑石	L=9.8m	(N)	コンクリート階段① + 手摺壁① + SUS手摺	1カ所	(V)	駐車場 (1台)	7カ所	(b)	ガードパイプ: スチール製 φ76.3 差込式が付(基礎共) W2000 X H800	1カ所
③	ユニット式物置	2214 x 1,862.5	3連	1棟	(G)	U字側溝 180型 + グレチンゲ蓋(細目タイプ)	L=42.6m	(O)	コンクリート階段② + 擁壁① + フェンス	1カ所	(W)	白線引き	L=471.0m	(c)	金戸ベンチ 既製品	2カ所
(A)	コンクリート舗装				(H)	雨水浸透柵 450x450 グレチンゲ蓋(細目タイプ)	10カ所	(P)	コンクリート擁壁③ + スチール製フェンス H=1200	L=18.5m	(X)	車止め: コンクリート製 L=600	36個	(d)	グラウンド舗装	510㎡
(B)	浸透性アスファルト舗装				(I)	境界石ブロック W120	L=76.3m	(Q)	コンクリート擁壁④ + スチール製フェンス H=1200	L=7.3m	(Y)	密粒アスファルト舗装	22.5㎡	(e)	高木(常緑広葉樹) ヨソゴ(かぶ立ち) H3000 添え柱 客土H800	6本
(C)	砕石舗装				(J)	境界石ブロック W150	L=11.4m	(R)	コンクリート擁壁⑤ + スチール製フェンス H=1200	L=11.5m			(f)	高木(落葉広葉樹) ヤマザクラ H4000 添え柱 客土H800	7本	
(D)	植栽(芝張り)				(K)	境界壁(コンクリート) + スチール製フェンス H=1200	L=36.0m	(S)	コンクリート擁壁⑥ + スチール製フェンス H=1200	L=17.4m			(g)	植込み: キリシマツツジ密植 H400 えぐみ土 H300入	55㎡	
					(L)	コンクリート擁壁⑦ + スチール製フェンス H=1200	L=28.6m	(T)	コンクリート擁壁⑦ + スチール製フェンス H=1200	L=62.4m						

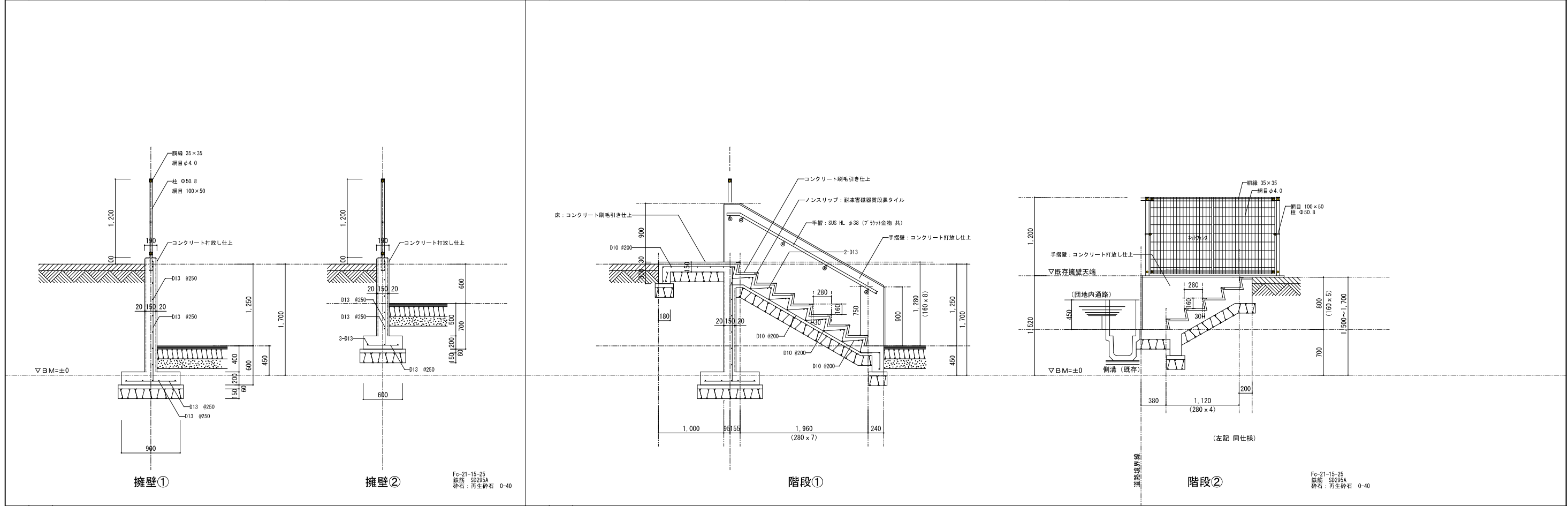




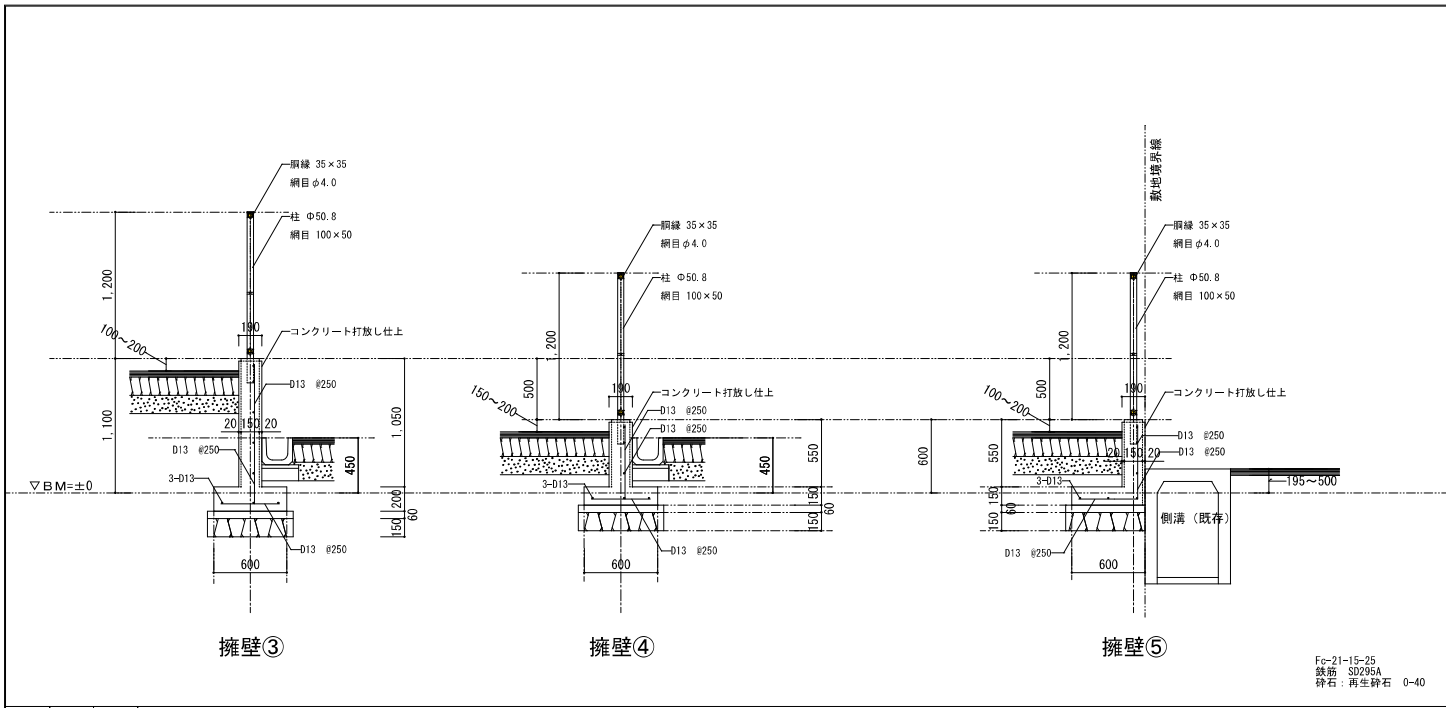
① コンクリート舗装 S=1:20 ② 浸透性 アスファルト舗装 S=1:20 ③ 砕石舗装 S=1:20 ④ 植栽 (芝貼り) S=1:20 ⑤ U型側溝 (車道用) 24型 S=1:20 ⑥ 植栽 緑石 詳細図 S=1:20



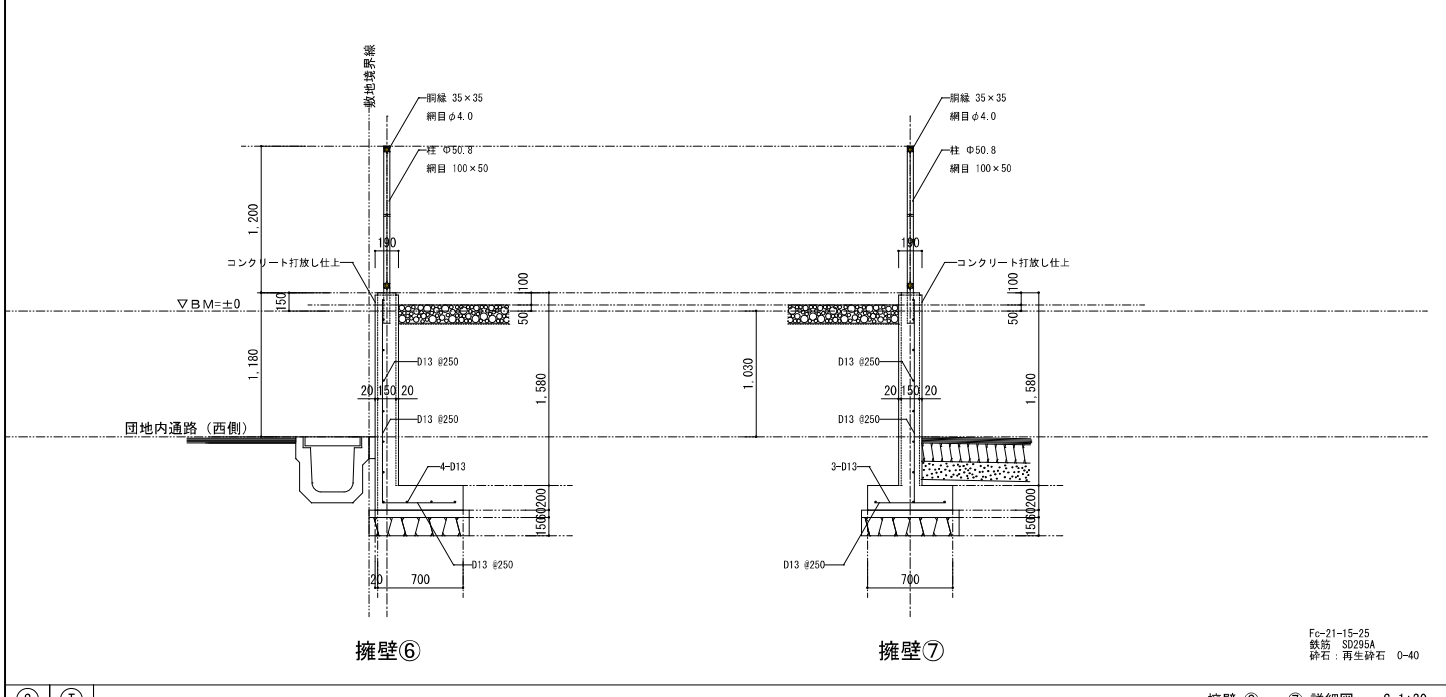
⑦ U字側溝 S=1:20 ⑧ 雨水浸透構 450 x 450 S=1:20 ⑨ 境界石ブロック W120 S=1:20 ⑩ 境界石ブロック W150 S=1:20 ⑪ 境界壁+スチール製フェンス S=1:30



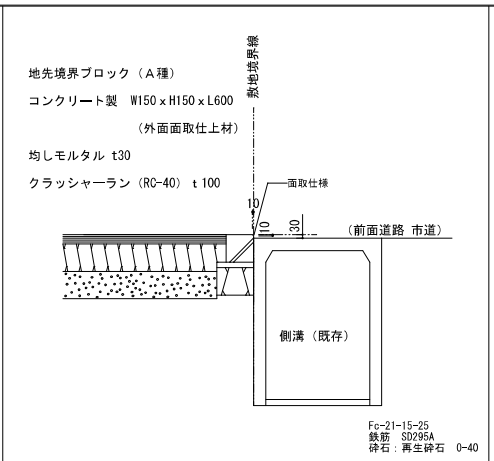
⑬ 擁壁①・② 詳細図 S=1:30 ⑭ 階段① 階段② (公園) 詳細図 S=1:30



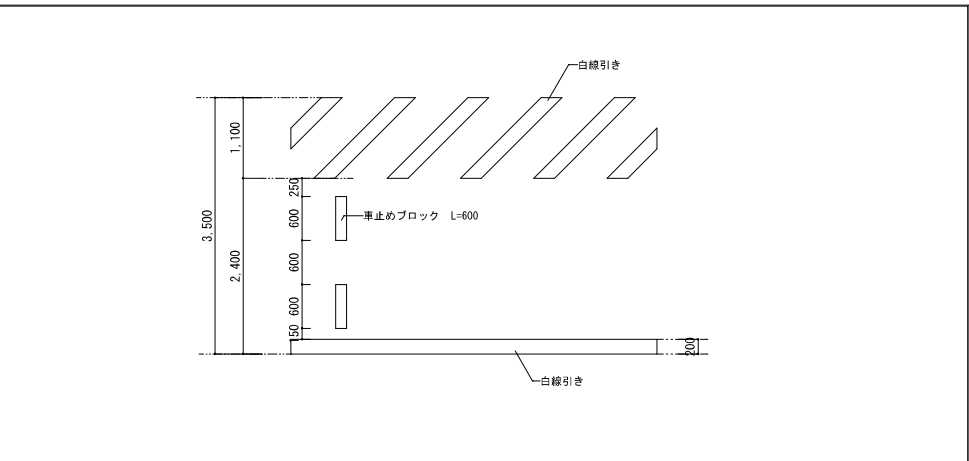
擁壁③ 擁壁④ 擁壁⑤
 Fe-21-15-25
 鉄筋 SD295A
 砕石 再生砕石 0-40
 擁壁③・④・⑤ 詳細図 S=1:30



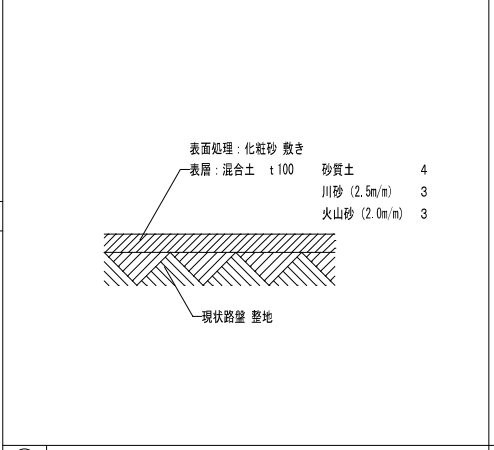
擁壁⑥ 擁壁⑦
 Fe-21-15-25
 鉄筋 SD295A
 砕石 再生砕石 0-40
 擁壁⑥・⑦ 詳細図 S=1:30



地先境界ブロック (A種)
 コンクリート製 W150 x H150 x L600
 (外面面取仕上材)
 均しモルタル t30
 クラッシュラン (RC-40) t100
 Fe-21-15-25
 鉄筋 SD295A
 砕石 再生砕石 0-40
 道路地先境界ブロック W150 S=1:20



駐車場 (1台) S=1:50



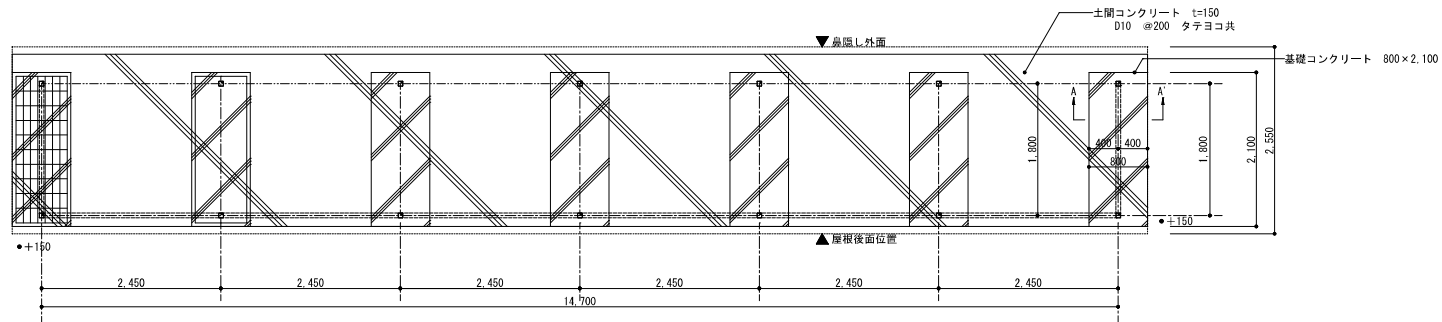
表面処理: 化粧砂 敷き
 表層: 混合土 t100 砂質土 4
 川砂 (2.5m/m) 3
 火山砂 (2.0m/m) 3
 現状路盤 整地
 グランド舗装 (公園) S=1:20



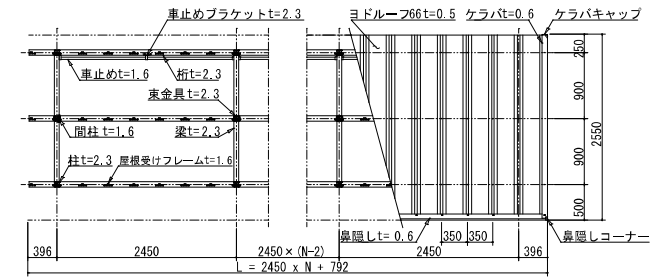
蓋戸ベンチ 詳細図 S=1:20



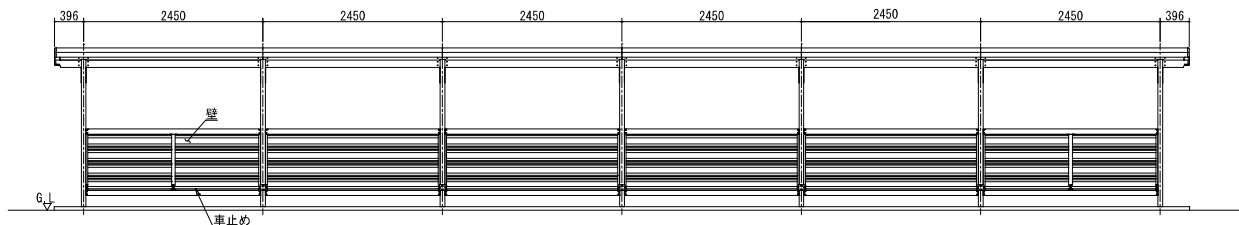
マンホール便所 詳細図 S=1:20



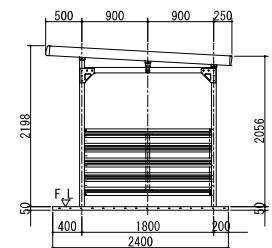
平面図・基礎伏図



小屋伏図



正面立面図



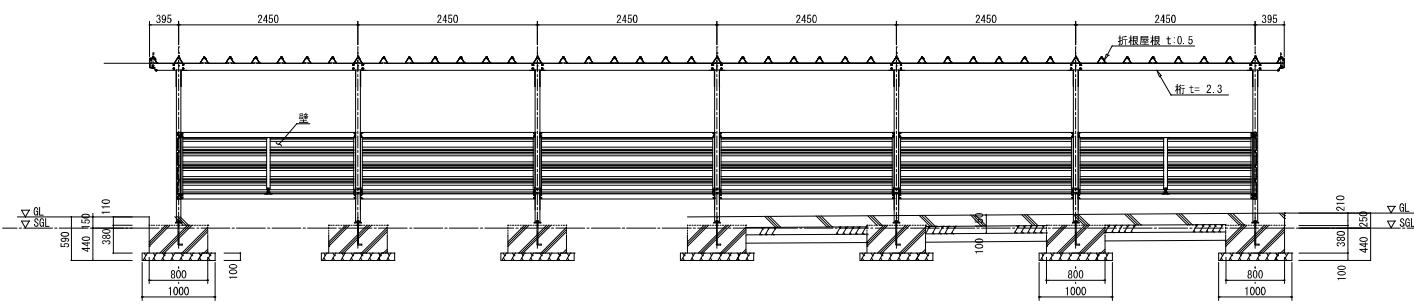
側面立面図

構造耐力上主要な部分の部材

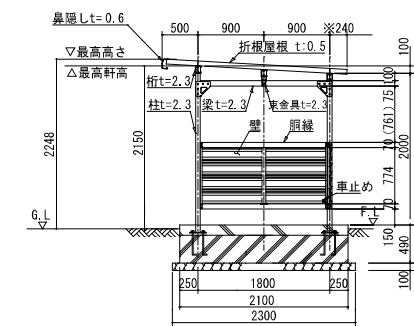
部材表	形状	板厚	使用材料	有効細長比
柱	□ 65 x 65	2.3mm	塗装溶融亜鉛めっき鋼板	98.6
梁	□ 75 x 65	2.3mm	塗装溶融亜鉛めっき鋼板	-
折	□ 100x75x20	2.3mm	塗装溶融亜鉛めっき鋼板	-
壁	角波サイディング	0.4mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC	-

構造耐力上主要な部分以外の部材

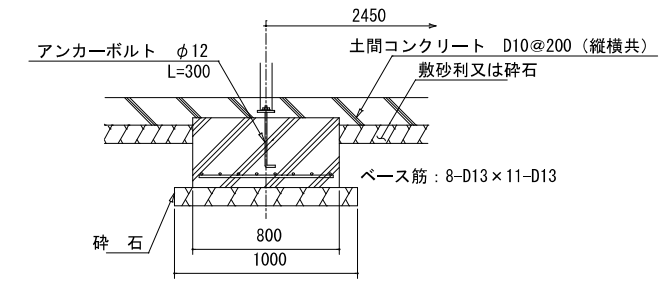
部材表	形状	板厚	使用材料
間柱	□ 50 x 20	1.6mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC
鋼線	□ 70 x 48	1.6mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC
車止め	□ 32 x 32	1.6mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC
屋根	折板屋根 65程度	0.5mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
建築面積 13.23 m ² /棟			(間口柱芯寸法) × (奥行柱芯寸法)



正面断面図



側面断面図

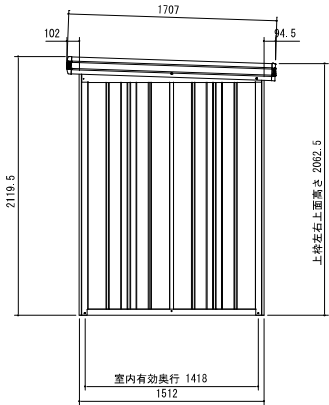
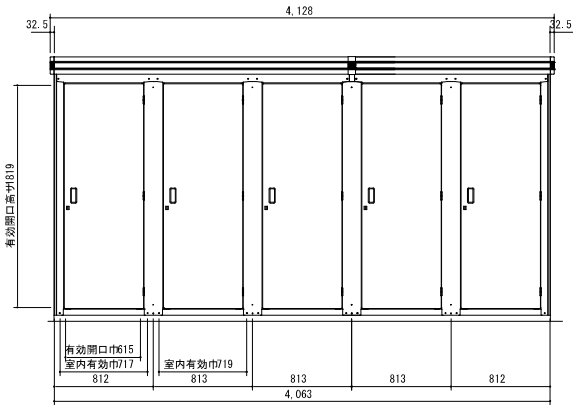


A-A 基礎断面図

Fc-21-15-25
鉄筋 SD295A
碎石：再生碎石 0-40

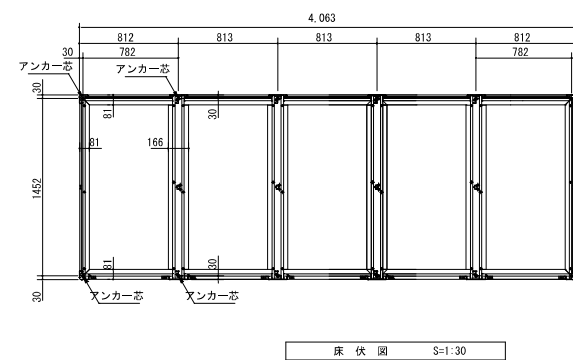
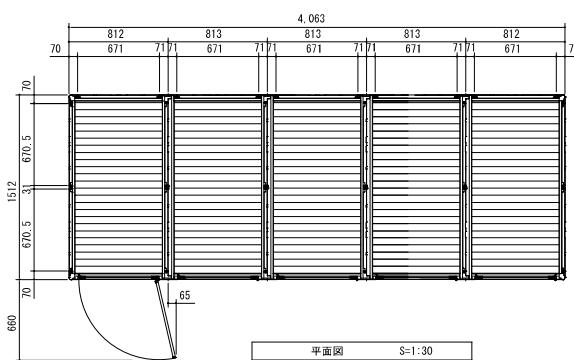
※ 積雪型仕様（耐荷重3000N/m²以上）とする。

延床面積・建築面積：14,700 (2,450×6) × 1,800 = 26.46 m² (8.01坪) : 2棟



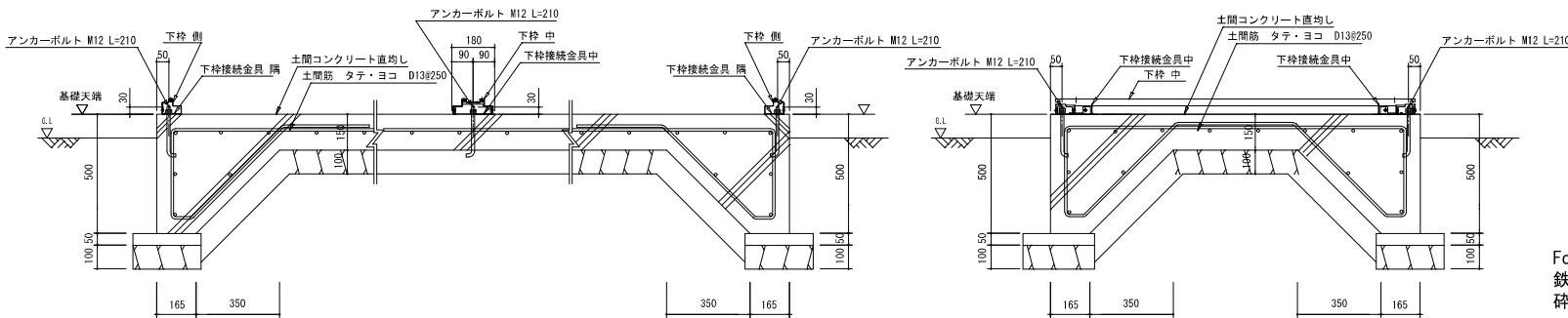
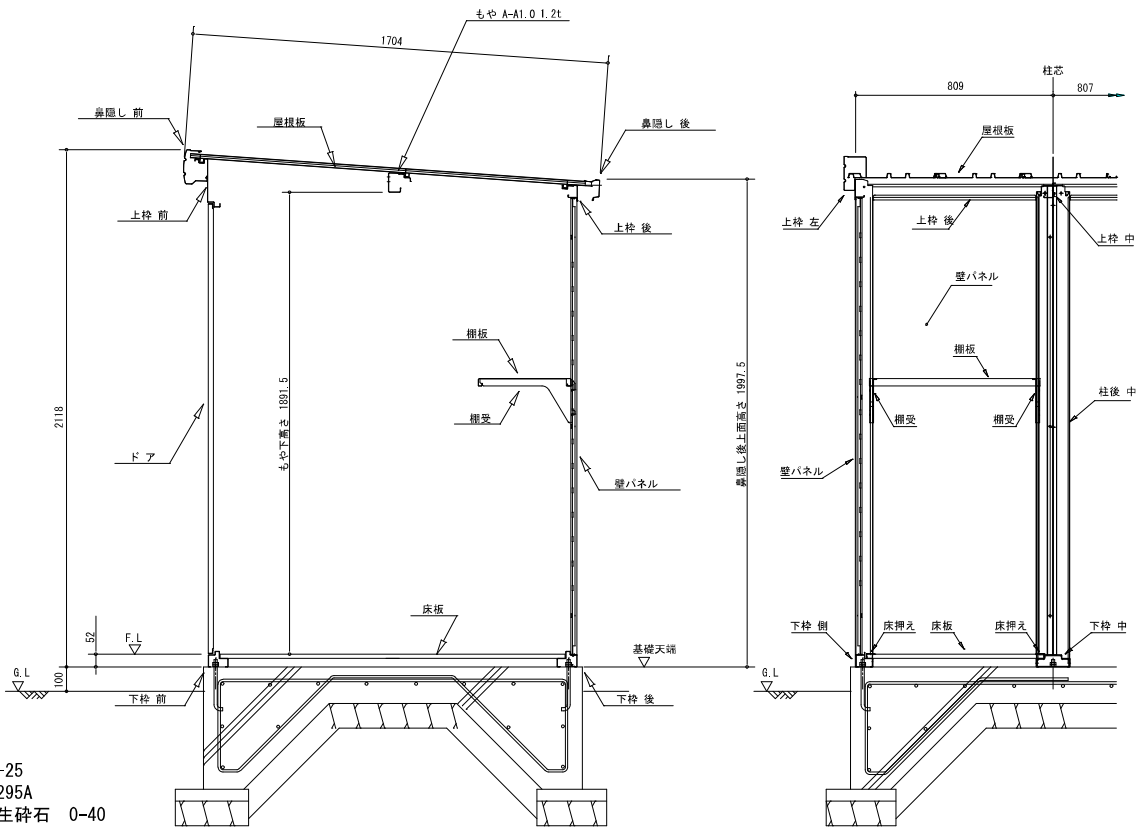
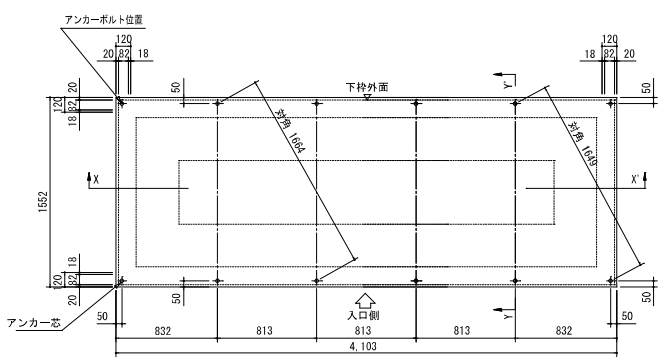
部 材 名	厚さ (φ/m)	材 質
屋根板	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC 発泡ポリスチレンフォーム 0.2mm風打ち
はりC	1.2	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
下 枠	1.0	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
下 枠 中	1.2	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
上 枠 前 (後)	1.0 (0.8)	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
上 枠 中	1.0	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
上 枠 左 右	0.6	塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板
鼻隠し 前	0.6	塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板
鼻隠し 後	0.6	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
鼻隠し前後接続材	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
柱 前 (後)	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
柱・前 中	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
柱・後 中	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
間柱	1.0	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
ドア (組付き)	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
壁パネル	1.0	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
床 板	0.7	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
アンカープレート	2.3	塗装溶融亜鉛めっき鋼板 (後塗装仕上げ)

部 材 名	サイズ (巾×高さ)
ドア	650 × 1842
壁パネル	670 × 1870



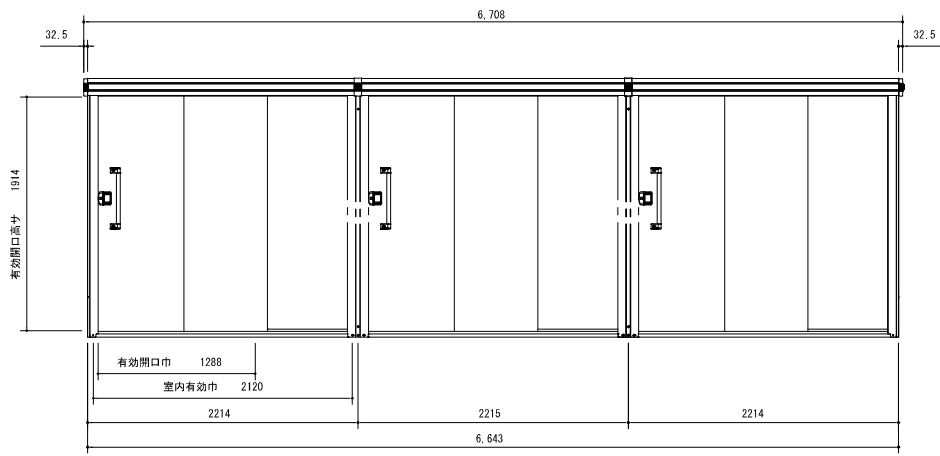
外部物置 (5連) : L 4,063 X D 1,512 床面積 : 6.14㎡ (1.86坪) : 6棟

※延焼ラインを生じさせない付属建物として取り扱うため、主要構造部は不燃材で造り、開口部 (扉) は、防火設備 (鋼板 t 0.8mm以上) とすること。

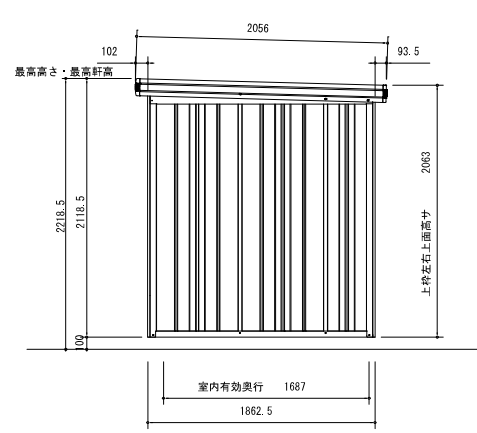


Fc-21-15-25
鉄筋 SD295A
砕石 : 再生砕石 0-40

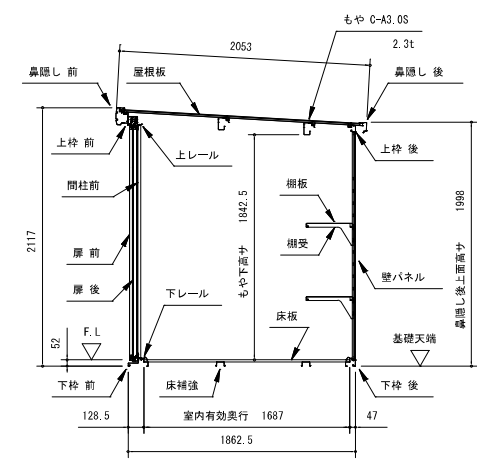
※ 積雪型仕様 (耐荷重3000N/m2以上) とする。



正面立面図 (S=1/30)



側面立面図 (S=1/30)

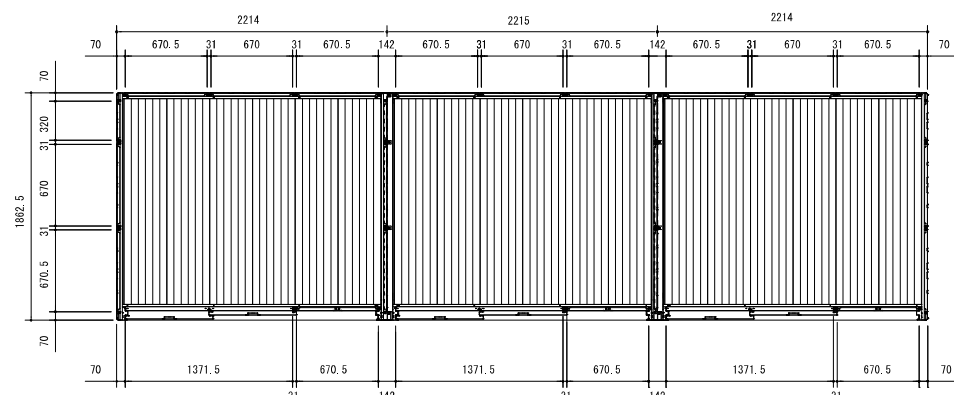


積雪型矩計図 (S=1/30)

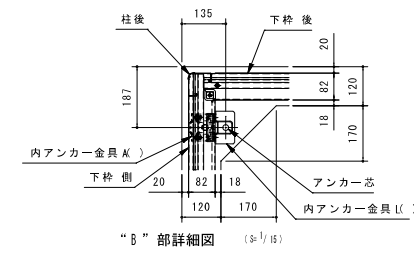
部 材 名	厚 さ (mm)	材 質
屋根板	0.4	JIS G3322 塗装溶融被覆アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 Q235L
床補強	1.2	JIS G3321 溶融被覆アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 Q235L
<一般型> もや A-A3.0	1.2	JIS G3322 塗装溶融被覆アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 Q235L
<積雪型> もや C-A3.0S	2.3	JIS G3312 塗装溶融被覆めっき鋼板 Q235L
下枠前 (側・後・中)	1.2 (1.0)	JIS G3322 塗装溶融被覆アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 Q235L
上枠前 (後)	1.0 (0.8)	JIS G3322 塗装溶融被覆アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 Q235L
上枠左右	0.8	JIS G3322 塗装溶融被覆アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 Q235L (フットカバー)
上枠中	1.2	JIS G3322 塗装溶融被覆アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 Q235L
上レール	1.2	アルミニウム合金押出形材
下レール	0.8	JIS G3322 塗装溶融被覆アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 Q235L
鼻隠し前	0.5	JIS G3322 塗装溶融被覆アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 Q235L (フットカバー)
鼻隠し後	0.5	JIS G3322 塗装溶融被覆アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 Q235L
隅柱 前・後	0.8	JIS G3322 塗装溶融被覆アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 Q235L
中柱 前・後	0.8	JIS G3322 塗装溶融被覆アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 Q235L
扉	0.6	JIS G3322 塗装溶融被覆アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 Q235L
壁パネル	0.5	JIS G3322 塗装溶融被覆アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 Q235L
袖壁	0.5	JIS G3322 塗装溶融被覆アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 Q235L
間柱	1.0	JIS G3322 塗装溶融被覆アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 Q235L
床板	0.6	JIS G3322 塗装溶融被覆アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 Q235L
内アンカー金具 (L)	2.3	JIS G3312 塗装溶融被覆めっき鋼板 Q235L

部 材 名	サイズ (巾×高さ)
扉前 L-A	716 x 1938
扉後 L-A	716 x 1938
壁パネル L-A	670 x 1870
壁パネル L-F	319.5 x 1870
袖壁 L-A	670 x 1909

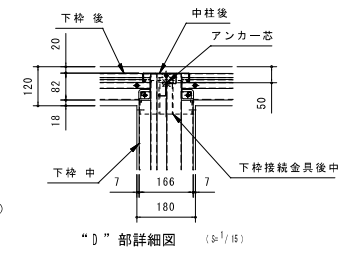
外部物置 (集会所用) (3連) : W6,643 X D1,862.5 床面積 : 12.37㎡ (3.74坪)



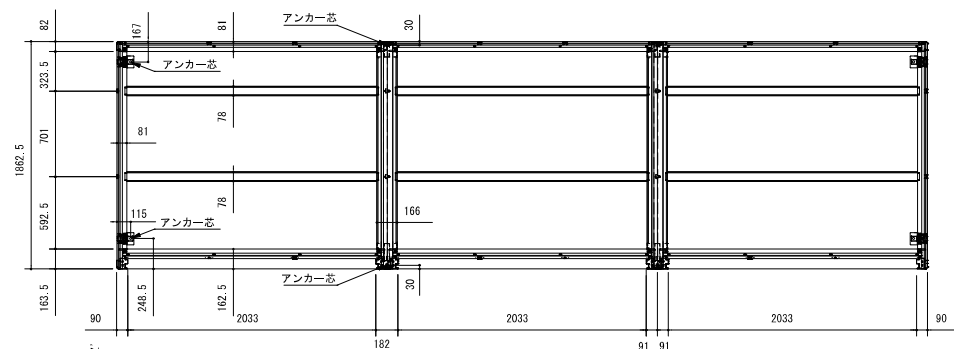
平面図 (S=1/30)



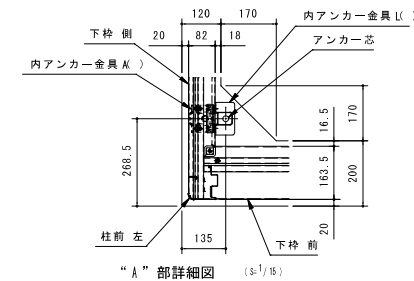
"B"部詳細図 (S=1/15)



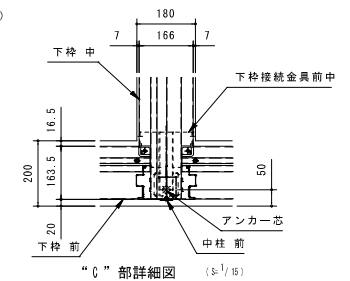
"D"部詳細図 (S=1/15)



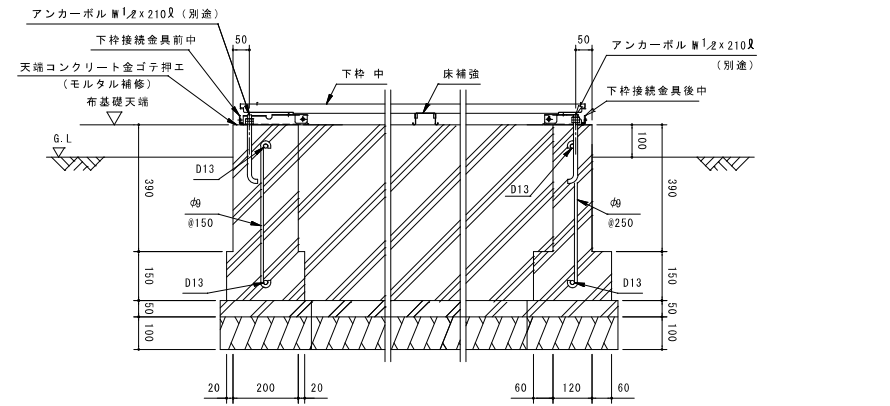
床伏図 (S=1/30)



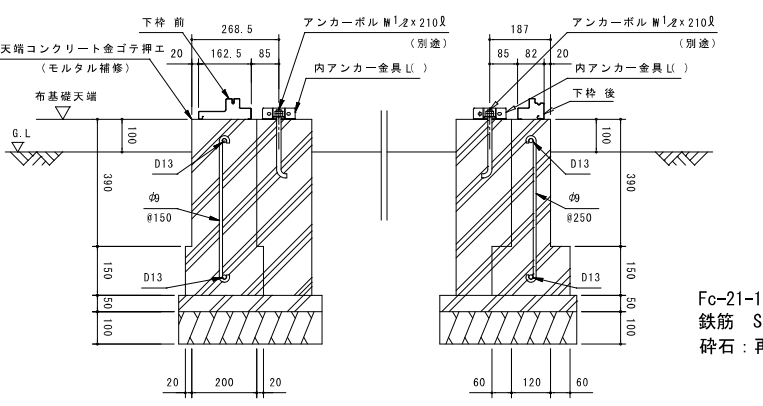
"A"部詳細図 (S=1/15)



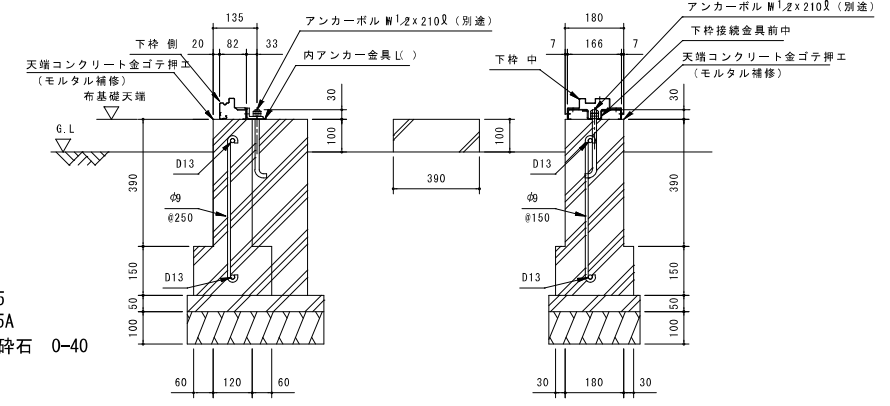
"C"部詳細図 (S=1/15)



Y-Y断面基礎断面図 (S=1/15)



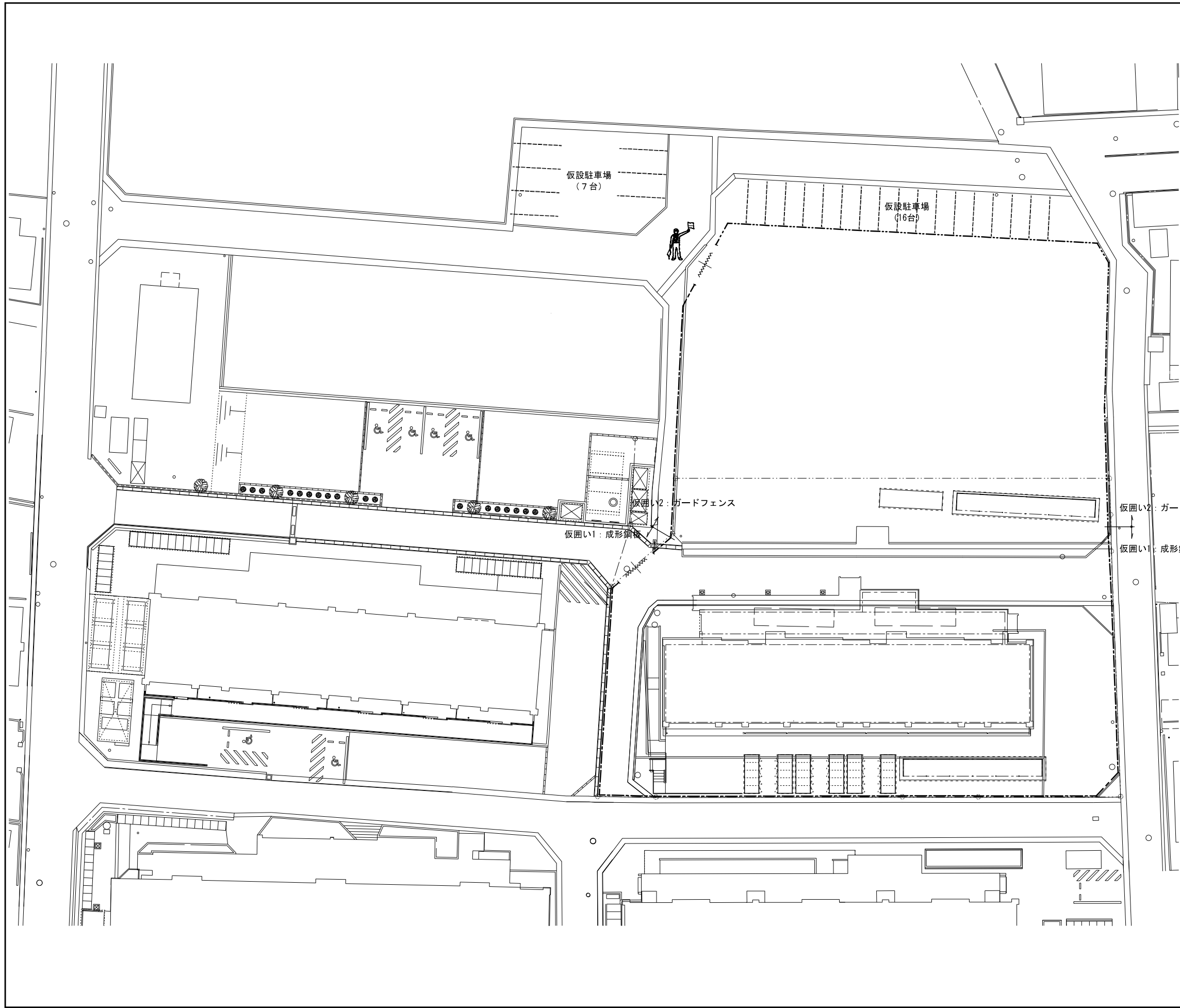
Z-Z断面基礎断面図 (S=1/15)



X-X断面基礎断面図 (S=1/15)

Fc-21-15-25
鉄筋 SD295A
砕石 : 再生砕石 0-40

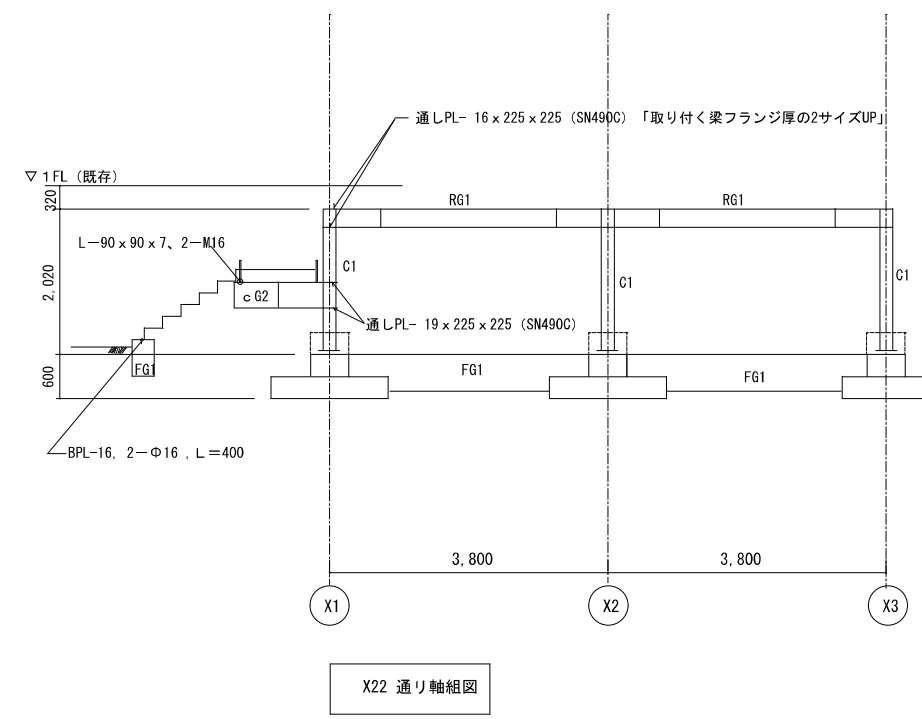
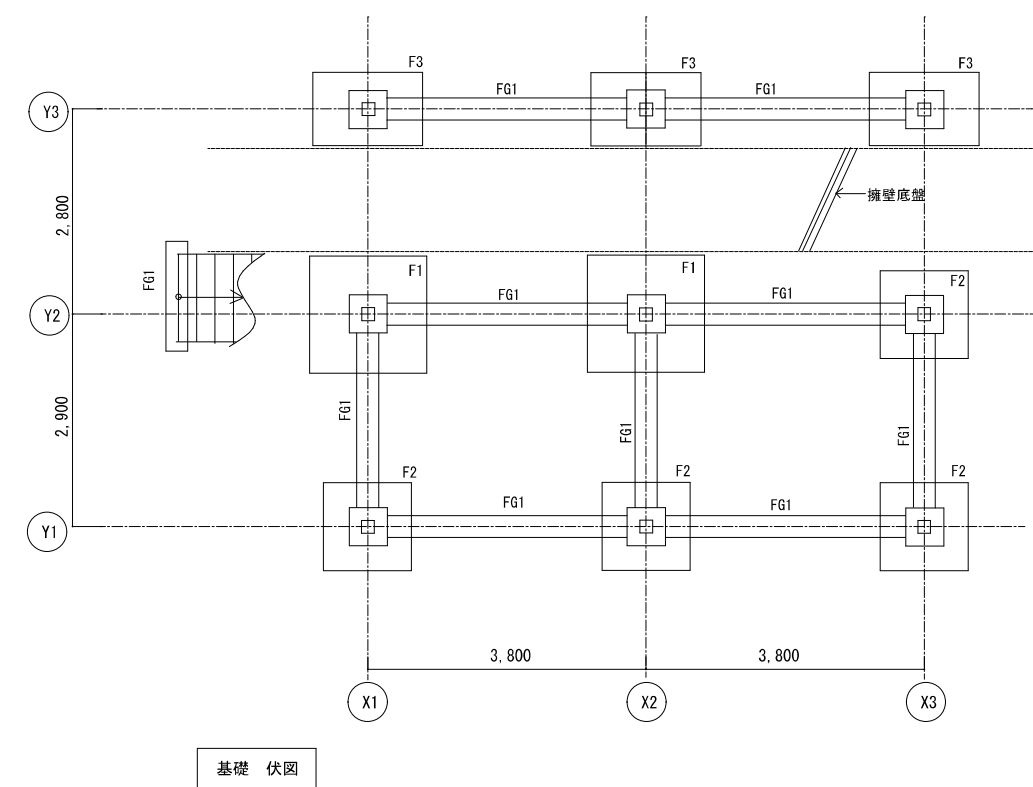
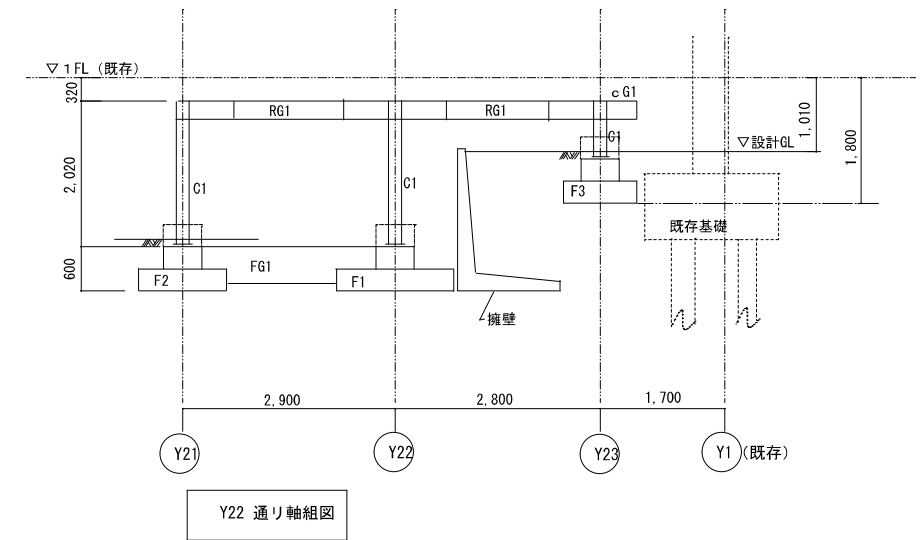
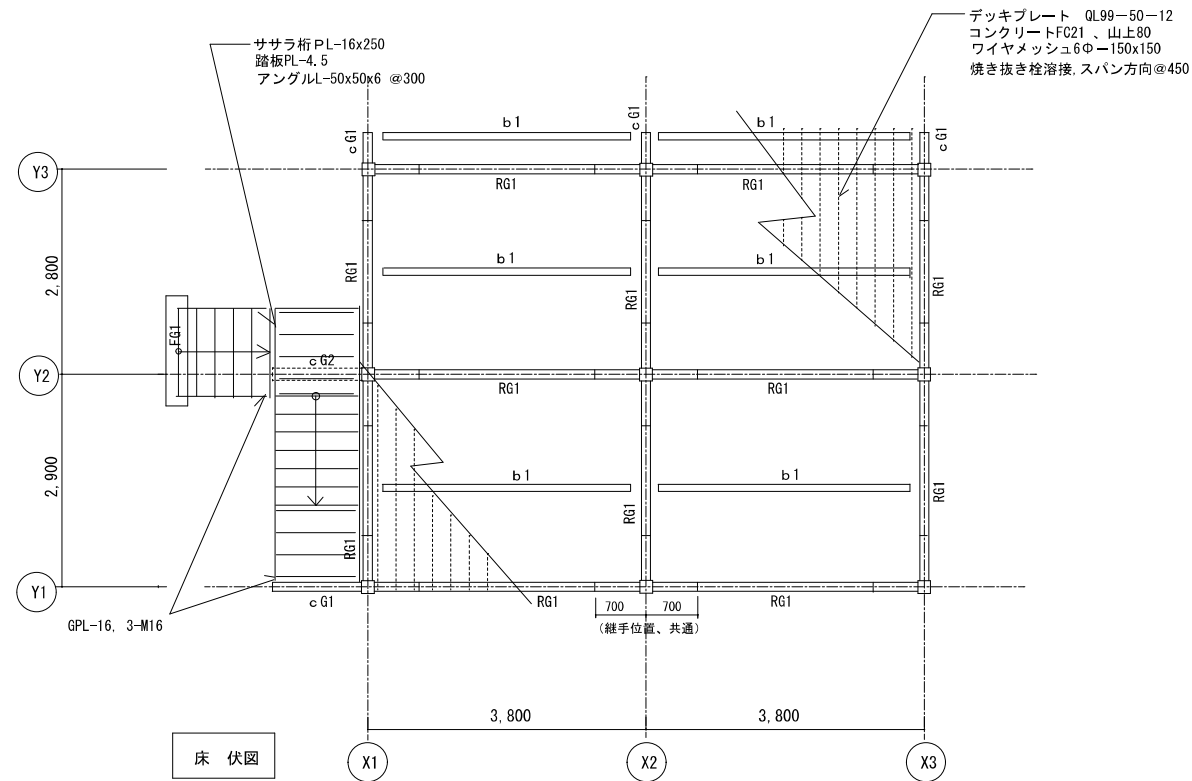
※ 積雪型仕様 (耐荷重3000N/m2以上) とする。



-----	仮囲い1 : 成形鋼板 t1.2 H=3000 115m ・ 解体後 カラーコーン
-----	仮囲い2 : ガードフェンス H=1800 100m (コンクリート土台、鋼管控え共) ・ 解体後 カラーコーン
-----	仮囲い3 (仮囲い1、仮囲い2解体後) カラーコーン + コーンバー
~~~~~	工事用出入口: アコーディオンゲート(引分け) W=6000・H1800
-----	ビニルロープ (トラロープ) : 120m
●	交通誘導員 450人

※ 必要に応じて道路占用等の許可を取得すること  
 ※ 成形鋼板、枠組足場とも風等により倒壊しないよう対策を講じること。

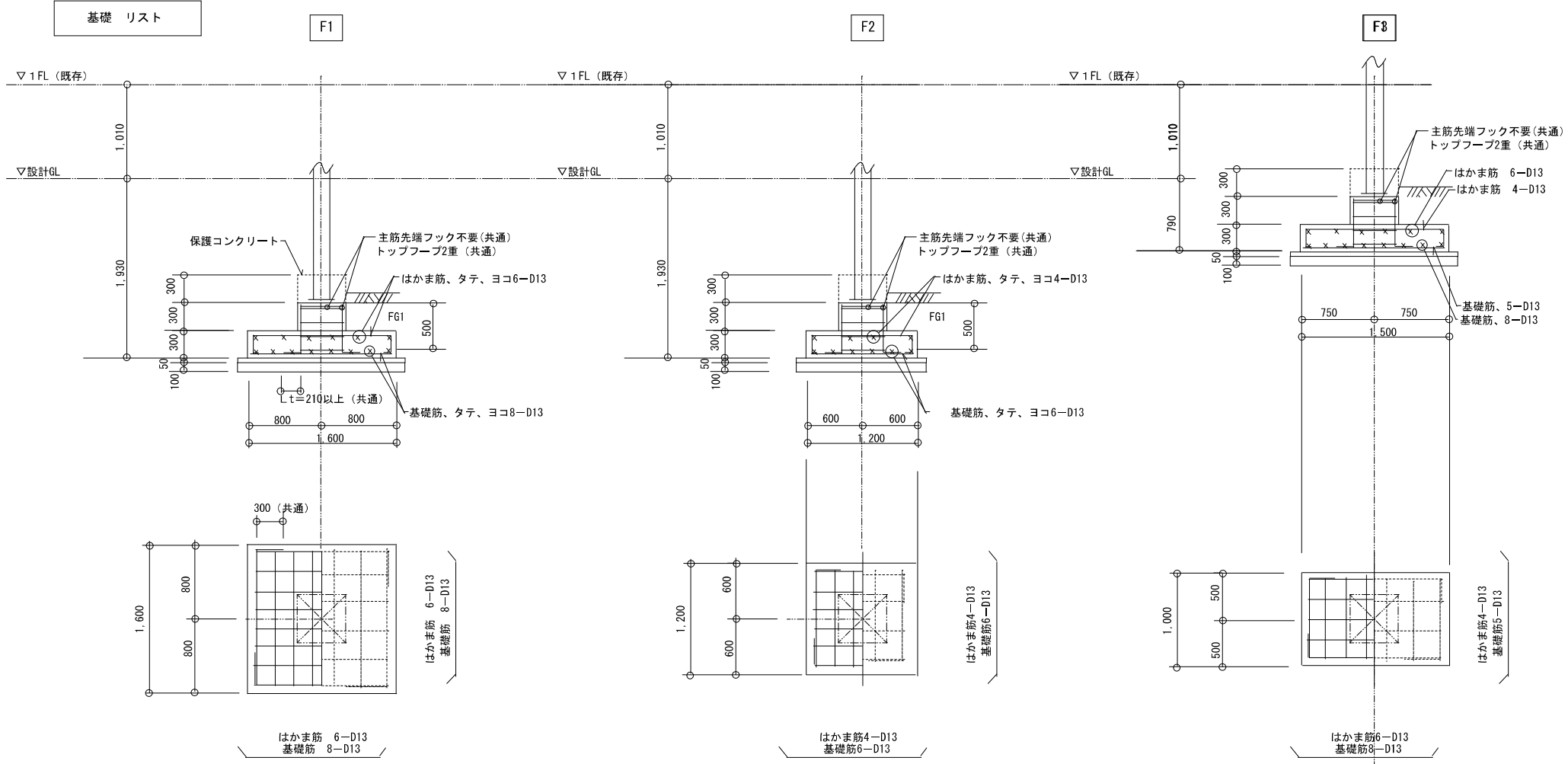
仮囲い1: 成形鋼板  
 仮囲い2: ガードフェンス  
 仮囲い1: 成形鋼板  
 仮囲い2: ガードフェンス



設計条件

コンクリート	設計基準強度Fc24
鉄骨	リストによる
設計地耐力	Fa=70 kN/m ² (長期)

基礎 リスト



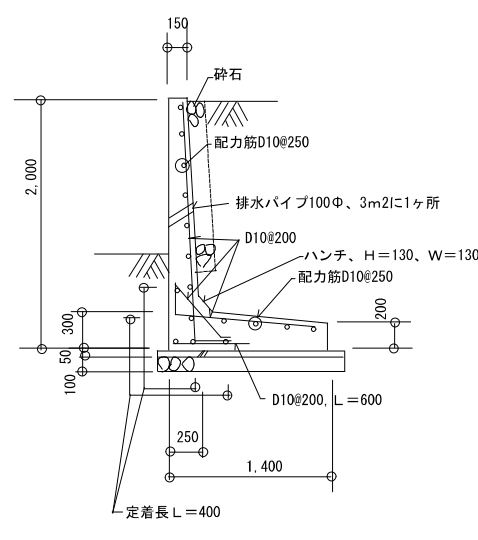
柱 リスト

*特記無き材質は BCR295 とする

符号	C 1
断面形状	全断面
1階	断面形状 □-175 x 175 x 6
柱脚	断面形状 310 310
	形式 EB 175-4-24 (ハイベースNEO)
	へ-スPL BPL-25x310x310
	筋付 4-24Φ
基礎柱	断面形状 520 520
	寸法 520 x 520
	主筋 8-D16
	帯筋 D13@150
保護 コンクリート	寸法 BxWxH=520 x 520 x 300
	主筋 8-D13
	帯筋 □-D13、2段

地中梁 リスト *特記無き幅止め筋はD10@1000以下とする。

符号	FG1
断面形状	全断面 
BxH	300 x 500
上端筋	2-D19
下端筋	2-D19
スターラップ	□-D10@200
腹筋	---
備考	



梁 リスト

*特記無き材質は SN400B とする

符号	RG1・CG1	CG2	b1
断面形状	全断面	全断面	全断面
寸法	H-250 x 125 x 6 x 9	H-350x175x7x11	H-200 x 100 x 5.5 x 8 (SS400)
仕口	---	---	GPL-9、2-M16

継手 リスト

*特記なき継手位置(柱芯~継手位置)は柱芯より 700 とする

梁符号	断面寸法	フランジ		ウェブ	
		ボルト(片面)	添板	ボルト(片面)	添板
CG2	H-350x175x7x11 SN400B	2 x 2-M20	PL-9 x 175 x 290 2PL-9 x 70 x 290	3x1-M20	2PL-6x260x170
RG1, CG1	H-250x125x6x9 SN400B	3 x 2-M16	PL-12x125x410	2x2-M16	2PL-6x170x290

特記仕様(構造関係)

I 建物構造概要等

Table with 4 columns: 主要用途, 階数, 建物高さ, 工事種別, etc. Includes details for common residential building with 5 floors and 14.73m height.

Table with 2 columns: 構造計算条件, 耐震設計条件. Includes seismic design parameters like building period (0.442s) and seismic coefficients.

II 建築工事仕様(構造関係)

- 1. 共通仕様: 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁審判部制定の「公共建築工事標準仕様書」...
2. 特記仕様: (1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。(2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。

適用範囲
特記仕様(構造関係)の適用範囲は下記の工事種目とする。
※ 特記仕様書(1) 仕様書 1 工事概要 2 工事種目に掲げる下記の工事種目番号(番号○～番号○までの工事種目)

Table with 2 columns: ① 支持力又は支持地盤の確認, ② 液状化対策. Includes details on support capacity and liquefaction countermeasures.

Table with 7 columns: 種類等, 材料, 寸法, 継手, 性能等. Details for precast concrete piles (PHC杭・PRC杭).

Table with 7 columns: 試験杭, 本杭. Details for test piles and main piles, including location and dimensions.

Table with 7 columns: 試験杭, 本杭. Details for test piles and main piles, including precision and construction methods.

Table with 7 columns: 試験杭, 本杭. Details for test piles and main piles, including material and construction methods.

Table with 7 columns: 試験杭, 本杭. Details for test piles and main piles, including precision and construction methods.

Table with 7 columns: 試験杭, 本杭. Details for test piles and main piles, including precision and construction methods.

Table with 7 columns: 試験杭, 本杭. Details for test piles and main piles, including precision and construction methods.

Table with 7 columns: 試験杭, 本杭. Details for test piles and main piles, including precision and construction methods.

Table with 2 columns: 10 置換コンクリート地盤, 形状等. Details for replacement concrete ground and its characteristics.

Table with 4 columns: 規格の名称, 種類の記号, 呼び径(mm), 適用箇所. Details for reinforcement specifications.

Table with 4 columns: 種類, 種類の記号, 網目の形状、寸法、鉄線の径 (mm), 適用箇所. Details for welded mesh specifications.

Table with 2 columns: 継手方法, 適用箇所. Details for joint methods and application areas.

④ 主筋の継手位置等
カットオフ鉄筋の長さ
○簡東地方整備局宮崎版 構造関係共通通則(配筋標準図)(以下「配筋標準図」という)
5.1.6.1, 7.1, 7.3による(・全て・下記以外全て)

⑤ 各部配筋
○配筋標準図による。
・構造図( )による。
・各部配筋参考図による。

⑥ 帯筋
組立の形の種別
○配筋標準図 6.2( H形 )による
・構造図( )による

9 壁開口部の補強
一般壁
・各部配筋参考図 2.2による
・配筋標準図 8.4( H形 )による

10 梁貫通孔の補強
補強形式
○国文大臣認定品を用いる。
・配筋標準図 11.2( H形 )による

11 圧接完了後の試験
外観試験 ※行う(全数)
抜取試験(第三者試験機関による)
○超音波探傷試験

12 特殊な鉄筋継手
適用箇所
・構造図( )による
・A級



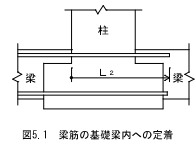
<b>①</b> コンクリート工事  <b>②</b> コンクリートの種類  <b>③</b> セメントの種類  <b>④</b> 骨材の種類  <b>⑤</b> 混和材料  <b>⑥</b> 打継ぎ目地の寸法、位置及び形状  <b>⑦</b> コンクリートの仕上り  <b>⑧</b> 打増し厚さ  <b>⑨</b> 型枠  <b>⑩</b> コンクリート強度及び試験方法  <b>⑪</b> コンクリートの単位水量測定	※ 普通コンクリート (J.2.1, 6.1.4) <table border="1"> <tr> <th>設計基準強度 $f_c$ (N/mm²)</th> <th>スラブ (cm)</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>① 24</td> <td>② 15</td> <td>基礎・地中梁・1階床・外部階段 EVピット下コンクリート</td> </tr> <tr> <td>② 21</td> <td>※</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>③ 15</td> <td>建物外部土間コンクリート</td> </tr> <tr> <td>③ 18</td> <td>④ 15</td> <td>捨コン</td> </tr> </table> 種類 (J.2.1) (表 6.1.1) ※ I 類 ・ II 類  セメントの種類 (J.2.1) (表 6.1.1) ※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントの A 種 ・ 高炉セメント B 種 (G) ・ フライアッシュセメント B 種 (G) 普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。 <table border="1"> <tr> <td>水和熱</td> <td>1日</td> <td>3日以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td>28日</td> <td>40日以下</td> </tr> </table> 使用骨材のアルカリシリカ反応による区分 (J.3.1) (J.3.2) ・ A ※ B (コンクリート中のアルカリ反応 $Rt=3.0$ g/m ³ 以下)	設計基準強度 $f_c$ (N/mm ² )	スラブ (cm)	適用箇所	① 24	② 15	基礎・地中梁・1階床・外部階段 EVピット下コンクリート	② 21	※			③ 15	建物外部土間コンクリート	③ 18	④ 15	捨コン	水和熱	1日	3日以下		28日	40日以下	12 軽量コンクリート (J.10.1, 表 6.10.1) <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>所要気乾単位容積質量 (t/m³)</th> <th>適用箇所</th> <th>常時土又は水に直接接する部分</th> </tr> <tr> <td>・ 1種</td> <td>・ 1.8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 2種</td> <td>・ 1.4</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ※ 打込み日を含む旬の日平均気温が 4℃ 以下の期間 (前年の気象庁データ、現場での実測データにより判断する) (J.11.1)  日平均気温の年平均値が 25℃ を超える期間 (J.12.1) ※ 7月26日から8月20日 (気象庁 長野地区 1981～2010年の累計平均値より) 構造体強度補正值 (S) (J.12.2) ◎ 3N/m ² ・ 3N/m ²	種類	所要気乾単位容積質量 (t/m ³ )	適用箇所	常時土又は水に直接接する部分	・ 1種	・ 1.8			・ 2種	・ 1.4			⑬ ターンバックル (J.16) 種類 建築用ターンバックル脚 ・ 割枠式 建築用ターンバックルボルト ◎ 羽子板ボルト ねじの呼び ・ 構造図 ( ) による	19 溶融亜鉛めっき (J.12.3) (表 4.2.2) <table border="1"> <tr> <th>種別等</th> <th>材料</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>A種 (M25)</td> <td>最小板厚 6.0mm 以上の形鋼、鋼板</td> <td>※ 外部階段</td> </tr> <tr> <td>B種 (M24)</td> <td>最小板厚 3.2mm 以上、6.0mm 未満の形鋼、鋼板</td> <td></td> </tr> <tr> <td>C種 (M25)</td> <td>普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚 1.6mm 以上、3.2mm 未満の形鋼、鋼板</td> <td></td> </tr> </table> 高力ボルト接合部摩擦面の処理 (J.12.4) ・ プラスト処理 ・ 特別な処理 ( ) 処理方法 ( )、すべり耐力の確認方法 ( )	種別等	材料	適用箇所	A種 (M25)	最小板厚 6.0mm 以上の形鋼、鋼板	※ 外部階段	B種 (M24)	最小板厚 3.2mm 以上、6.0mm 未満の形鋼、鋼板		C種 (M25)	普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚 1.6mm 以上、3.2mm 未満の形鋼、鋼板	
	設計基準強度 $f_c$ (N/mm ² )	スラブ (cm)	適用箇所																																														
	① 24	② 15	基礎・地中梁・1階床・外部階段 EVピット下コンクリート																																														
	② 21	※																																															
		③ 15	建物外部土間コンクリート																																														
	③ 18	④ 15	捨コン																																														
	水和熱	1日	3日以下																																														
		28日	40日以下																																														
	種類	所要気乾単位容積質量 (t/m ³ )	適用箇所	常時土又は水に直接接する部分																																													
	・ 1種	・ 1.8																																															
・ 2種	・ 1.4																																																
種別等	材料	適用箇所																																															
A種 (M25)	最小板厚 6.0mm 以上の形鋼、鋼板	※ 外部階段																																															
B種 (M24)	最小板厚 3.2mm 以上、6.0mm 未満の形鋼、鋼板																																																
C種 (M25)	普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚 1.6mm 以上、3.2mm 未満の形鋼、鋼板																																																
	種類 ※ I 類 ・ II 類  セメントの種類 (J.2.1) (表 6.1.1) ※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントの A 種 ・ 高炉セメント B 種 (G) ・ フライアッシュセメント B 種 (G) 普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。 <table border="1"> <tr> <td>水和熱</td> <td>1日</td> <td>3日以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td>28日</td> <td>40日以下</td> </tr> </table> 使用骨材のアルカリシリカ反応による区分 (J.3.1) (J.3.2) ・ A ※ B (コンクリート中のアルカリ反応 $Rt=3.0$ g/m ³ 以下)	水和熱	1日	3日以下		28日	40日以下	15 マスコンクリート (J.12.1, 6.12.2) <table border="1"> <tr> <th>セメント種別</th> <th>混和材</th> <th>スラブ</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> コンクリートの種類 (J.14.1) ※ 普通コンクリート <table border="1"> <tr> <th>設計基準強度 $f_c$ (N/mm²)</th> <th>スラブ (cm)</th> <th>セメントの種類</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>※ 18</td> <td>※ 15</td> <td>※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントの A 種</td> <td>捨コンクリート</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>又は 18</td> <td>・ 高炉セメント B 種 ・ フライアッシュセメント B 種</td> <td></td> </tr> </table>	セメント種別	混和材	スラブ	適用箇所					設計基準強度 $f_c$ (N/mm ² )	スラブ (cm)	セメントの種類	適用箇所	※ 18	※ 15	※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントの A 種	捨コンクリート	・	又は 18	・ 高炉セメント B 種 ・ フライアッシュセメント B 種		⑭ ターンバックル (J.16) 種類 建築用ターンバックル脚 ・ 割枠式 建築用ターンバックルボルト ◎ 羽子板ボルト ねじの呼び ・ 構造図 ( ) による	20 梁貫通孔の補強 補強方法 ・ 補強プレート法 ・ 補強トラス法 適用箇所 ※ 構造図 ( ) による																			
水和熱	1日	3日以下																																															
	28日	40日以下																																															
セメント種別	混和材	スラブ	適用箇所																																														
設計基準強度 $f_c$ (N/mm ² )	スラブ (cm)	セメントの種類	適用箇所																																														
※ 18	※ 15	※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントの A 種	捨コンクリート																																														
・	又は 18	・ 高炉セメント B 種 ・ フライアッシュセメント B 種																																															
	⑦ 鉄骨工事 <b>①</b> 鉄骨の製作工場 (J.1.3) 製作工場の加工能力 ◎ 建築基準法第 77 条の 45 第 1 項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた ㈩ 日本鉄骨評価センター及び㈩ 全国鉄骨評価機構 (㈩ 全国鋼構工業協会) の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「(M) グレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 ◎ 監督職員の承諾する製作工場  <b>②</b> 施工管理技術者 (J.1.3, J.1.4, 6.1.3, 6.12.2) ※ 適用する ・ 適用しない  <b>③</b> 製作精度 (J.1.3) ※ (社) 日本建築学会「JASS 6 鉄骨工事」付則 6 [鉄骨精度検査基準] による。  <b>④</b> 建方精度 (J.1.3) ※ (社) 日本建築学会「JASS 6 鉄骨工事」付則 6 [鉄骨精度検査基準] 付表 5 [工事現場] による。  <b>⑤</b> 鋼材 (J.2.1) (表 2.1) <table border="1"> <tr> <th>種類の記号</th> <th>適用箇所</th> <th>規格等</th> </tr> <tr> <td>◎ S400</td> <td>小梁</td> <td>※ JIS 規格による</td> </tr> <tr> <td>◎ S400B ・ S N400B</td> <td>大梁</td> <td>※ JIS 規格による</td> </tr> <tr> <td>・ S N400C ◎ S N400C</td> <td>ダイアフラム</td> <td>※ JIS 規格による</td> </tr> <tr> <td>◎ B C R295 ・ S T K R400</td> <td>BOX 柱</td> <td>※ JIS 規格による</td> </tr> <tr> <td>・ S S C400</td> <td>モヤ</td> <td>※ JIS 規格による</td> </tr> </table>	種類の記号	適用箇所	規格等	◎ S400	小梁	※ JIS 規格による	◎ S400B ・ S N400B	大梁	※ JIS 規格による	・ S N400C ◎ S N400C	ダイアフラム	※ JIS 規格による	◎ B C R295 ・ S T K R400	BOX 柱	※ JIS 規格による	・ S S C400	モヤ	※ JIS 規格による	⑮ 溶接条件 (J.16) 鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 ・ 構造図 ( ) による ◎ 構造関係共通図 (鉄骨標準図) (5) (7) 鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件による  適用箇所 ・ 構造図 ( ) による ◎ 柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部  スクラップの形状 (J.6.7) ◎ 改良型 エンドタブの切除 ◎ 行なう 適用箇所 ◎ 全て ・ 構造図 ( ) による ・ 行なわない  完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 (J.6.11) ・ 行わない ※ 行う ※ 自社 100% ※ 第三者検査機関 ・ 工場溶接の場合 <table border="1"> <tr> <td>節</td> <td>◎ 全て</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>検査水準</td> <td>◎ 第 6 水準</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ・ 工事現場溶接の場合 ※ 全数 ・ AQL (・ 4.0% ・ 2.5%) 完全溶け込み溶接部の食い違い仕口のずれの検査 独立行政法人建築研究所監修 「完全溶け込み溶接の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。 ※ 抜き取り検査① ※ 抜き取り検査②	節	◎ 全て			検査水準	◎ 第 6 水準			① 軽微な変更の対応 (あらかじめ検討) 施工の関係上やむを得ず発生する可能性の高い変更事項への対応方法について、あらかじめ検討を行っている部分 本検討は、計画通知の変更を要しない範囲及び対応方法を定めるものであり、品質管理上の施工精度を許容するものではない。 ・ くいのおずれを考慮した検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※ 構造図による。 ・ くいの変更を見込んだ検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※ 構造図による。 ・ はり貫通孔の大きさと位置の変更を見込んだ検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※ 構造図による。																				
種類の記号	適用箇所	規格等																																															
◎ S400	小梁	※ JIS 規格による																																															
◎ S400B ・ S N400B	大梁	※ JIS 規格による																																															
・ S N400C ◎ S N400C	ダイアフラム	※ JIS 規格による																																															
◎ B C R295 ・ S T K R400	BOX 柱	※ JIS 規格による																																															
・ S S C400	モヤ	※ JIS 規格による																																															
節	◎ 全て																																																
検査水準	◎ 第 6 水準																																																
	⑧ 高力ボルト (J.2.2) (J.2.3) 区分 ◎ トルシア形高力ボルト 2種 (S10T) ・ JIS 形高力ボルト 2種 (F10T) 高力ボルトの径 ※ 構造図による すべり係数試験 (J.4.3) ※ 行わない ・ 行う	⑯ 溶接部の試験 (J.6.11) 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 ・ 行わない ※ 行う ※ 自社 100% ※ 第三者検査機関 ・ 工場溶接の場合 <table border="1"> <tr> <td>節</td> <td>◎ 全て</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>検査水準</td> <td>◎ 第 6 水準</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ・ 工事現場溶接の場合 ※ 全数 ・ AQL (・ 4.0% ・ 2.5%) 完全溶け込み溶接部の食い違い仕口のずれの検査 独立行政法人建築研究所監修 「完全溶け込み溶接の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。 ※ 抜き取り検査① ※ 抜き取り検査②	節	◎ 全て			検査水準	◎ 第 6 水準			① 軽微な変更の対応 (あらかじめ検討) 施工の関係上やむを得ず発生する可能性の高い変更事項への対応方法について、あらかじめ検討を行っている部分 本検討は、計画通知の変更を要しない範囲及び対応方法を定めるものであり、品質管理上の施工精度を許容するものではない。 ・ くいのおずれを考慮した検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※ 構造図による。 ・ くいの変更を見込んだ検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※ 構造図による。 ・ はり貫通孔の大きさと位置の変更を見込んだ検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※ 構造図による。																																						
節	◎ 全て																																																
検査水準	◎ 第 6 水準																																																
	⑨ 縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (J.2.2) (J.2.3) 高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの縁端距離、ボルト間隔、ボルト径、ゲージ等 ※ 構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1 縁端距離及びボルト間隔による	⑰ 耐火試験 (J.8.1~7) 耐火試験 日本住宅性能表示基準 3-1. 劣化対策等級 鉄骨造 等級 3 に適合するものとする 適用箇所：ベースプレート・柱・梁・筋交い 工場塗装：ジククリッチプライマー (1回) + 2液形エポキシ樹脂プライマー (1回) 現場塗装：2液形エポキシ樹脂エナメル (2回)	① 軽微な変更の対応 (あらかじめ検討) 施工の関係上やむを得ず発生する可能性の高い変更事項への対応方法について、あらかじめ検討を行っている部分 本検討は、計画通知の変更を要しない範囲及び対応方法を定めるものであり、品質管理上の施工精度を許容するものではない。 ・ くいのおずれを考慮した検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※ 構造図による。 ・ くいの変更を見込んだ検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※ 構造図による。 ・ はり貫通孔の大きさと位置の変更を見込んだ検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※ 構造図による。																																														
	⑩ 溶融亜鉛めっき高力ボルト (J.12.4) セットの種類 ・ 1種 (F81相当) (屋外階段部分に採用) 摩擦面の処理 (J.12.4) ※ プラスト処理 (表面粗度 $50 \mu\text{m}$ 以上) ・ りん酸塩処理 すべり耐力等の確認方法 ・ 構造図による	⑱ 耐火試験 (J.8.1~7) 耐火試験 日本住宅性能表示基準 3-1. 劣化対策等級 鉄骨造 等級 3 に適合するものとする 適用箇所：ベースプレート・柱・梁・筋交い 工場塗装：ジククリッチプライマー (1回) + 2液形エポキシ樹脂プライマー (1回) 現場塗装：2液形エポキシ樹脂エナメル (2回)	① 軽微な変更の対応 (あらかじめ検討) 施工の関係上やむを得ず発生する可能性の高い変更事項への対応方法について、あらかじめ検討を行っている部分 本検討は、計画通知の変更を要しない範囲及び対応方法を定めるものであり、品質管理上の施工精度を許容するものではない。 ・ くいのおずれを考慮した検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※ 構造図による。 ・ くいの変更を見込んだ検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※ 構造図による。 ・ はり貫通孔の大きさと位置の変更を見込んだ検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※ 構造図による。																																														
	⑪ アンカーボルト (J.10.3) (表 10.1) 保持及び埋込み工法 (J.10.3) (表 10.1) ・ 構造図による ・ 埋方用 ・ 埋方用 ※ 普通ボルトによる 材料、調査等 ◎ 埋方 7.2.9 による 品質及び試験方法 ◎ 埋方 表 7.2.6 による 工法の種別 (J.10.2) ◎ 埋方 表 7.10.2 ◎ A 種 [フレーム柱] ・ B 種 [間柱]	⑱ 耐火試験 (J.8.1~7) 耐火試験 日本住宅性能表示基準 3-1. 劣化対策等級 鉄骨造 等級 3 に適合するものとする 適用箇所：ベースプレート・柱・梁・筋交い 工場塗装：ジククリッチプライマー (1回) + 2液形エポキシ樹脂プライマー (1回) 現場塗装：2液形エポキシ樹脂エナメル (2回)	① 軽微な変更の対応 (あらかじめ検討) 施工の関係上やむを得ず発生する可能性の高い変更事項への対応方法について、あらかじめ検討を行っている部分 本検討は、計画通知の変更を要しない範囲及び対応方法を定めるものであり、品質管理上の施工精度を許容するものではない。 ・ くいのおずれを考慮した検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※ 構造図による。 ・ くいの変更を見込んだ検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※ 構造図による。 ・ はり貫通孔の大きさと位置の変更を見込んだ検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※ 構造図による。																																														
	⑫ 柱底均しモルタル (J.2.8) モルタルの種類 ◎ 無収縮モルタル 無収縮モルタルの材料及び調査材料、調査等 ◎ 埋方 7.2.9 による 品質及び試験方法 ◎ 埋方 表 7.2.6 による 工法の種別 (J.10.2) ◎ 埋方 表 7.10.2 ◎ A 種 [フレーム柱] ・ B 種 [間柱]	⑱ 耐火試験 (J.8.1~7) 耐火試験 日本住宅性能表示基準 3-1. 劣化対策等級 鉄骨造 等級 3 に適合するものとする 適用箇所：ベースプレート・柱・梁・筋交い 工場塗装：ジククリッチプライマー (1回) + 2液形エポキシ樹脂プライマー (1回) 現場塗装：2液形エポキシ樹脂エナメル (2回)	① 軽微な変更の対応 (あらかじめ検討) 施工の関係上やむを得ず発生する可能性の高い変更事項への対応方法について、あらかじめ検討を行っている部分 本検討は、計画通知の変更を要しない範囲及び対応方法を定めるものであり、品質管理上の施工精度を許容するものではない。 ・ くいのおずれを考慮した検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※ 構造図による。 ・ くいの変更を見込んだ検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※ 構造図による。 ・ はり貫通孔の大きさと位置の変更を見込んだ検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※ 構造図による。																																														



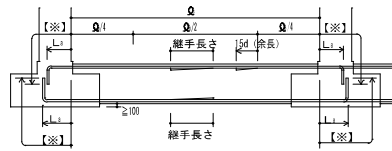
5 基礎及び基礎梁の配筋

5.1 基礎梁主筋の継手、定着及び余長

- (a) 一般事項  
 (1) 梁筋は、連続壁で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部等は折り曲げて定着する。  
 (2) 梁筋を柱内に定着する場合は、7.1(a)(2)による。



(b) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長



- (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。  
 2. 印は、継手及び余長位置を示す。  
 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。  
 ※ 40d (軽量コンクリートの場合は、50d) と表3.3のフックなし定着長さのうち大きい値とする

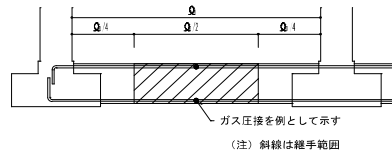
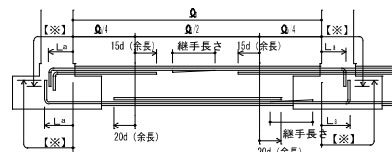


図5.2 主筋の継手、定着及び余長 (その1)

(c) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長  
 ただし、副任スラブが付く場合は、(d)による。



- (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。  
 2. 印は、継手及び余長位置を示す。  
 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。  
 ※ 40d (軽量コンクリートの場合は、50d) と表3.3のフックなし定着長さのうち大きい値とする

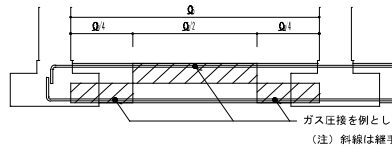
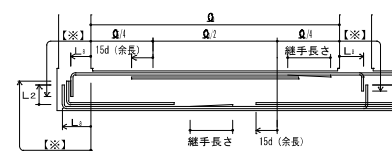


図5.3 主筋の継手、定着及び余長 (その2)

(d) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長



- (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。  
 2. 印は、継手及び余長位置を示す。  
 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。  
 ※ 40d (軽量コンクリートの場合は、50d) と表3.3のフックなし定着長さのうち大きい値とする

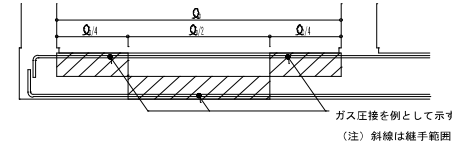


図5.4 主筋の継手、定着及び余長 (その3)

5.2 基礎梁のあばら筋

- (a) あばら筋組立の形及びフックの位置は、7.2(a)による。ただし、梁の上下にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図5.5によることができる。

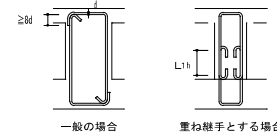
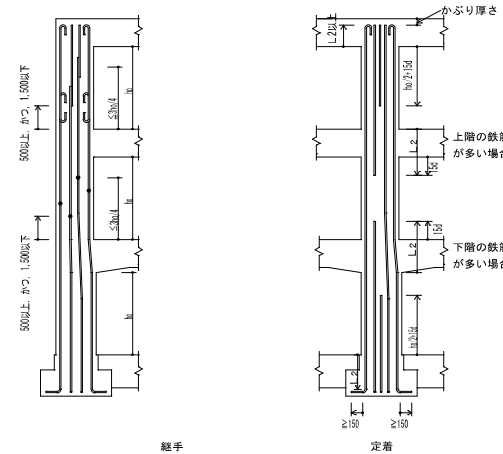


図5.5 あばら筋組立の形及びフックの位置

6 柱の配筋

6.1 柱主筋の継手、定着及び余長

- (a) 柱主筋の継手、定着及び余長の一般事項  
 (1) 継手の中心位置は、梁上端から500mm以上、1500mm以下、かつ、3h/4 (hは柱の内法高さ) 以下とする。  
 (2) 継手、定着及び余長は図6.1による。ただし、柱頭定着長さL2を確保できない場合は構造図に改。



- (注) 1. 柱の両側にある主筋で、重ね継手の場合及び最上層の柱頭にある場合には、フックを付ける。  
 2. 隣り合う継手の位置は、表3.2による。

図6.1 柱主筋の継手、定着及び余長

6.2 帯筋組立の形及び割付け

- (a) 帯筋の種類及び間隔は、構造図による

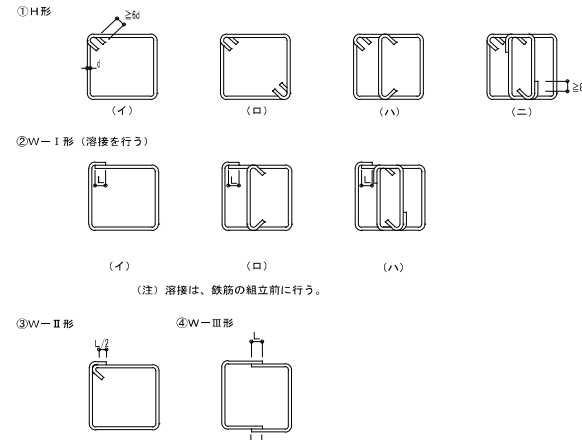
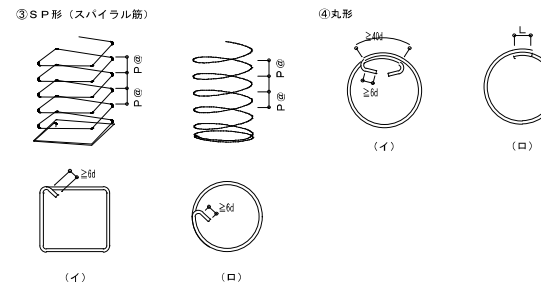
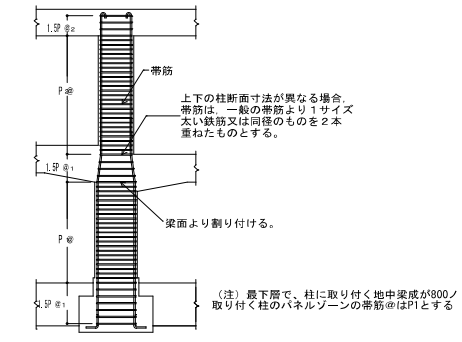


図6.2 帯筋組立の形及び割付け



- (注) 1. フック及び継手の位置は、交互とする。  
 2. 溶接する場合の溶接長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。  
 3. SP形において、柱頭及び柱筋の端部は1.5巻以上の巻着を行う。  
 4. H形の135° 曲げのフックが困難な場合は、W-1形とする。

(b) 帯筋の割付けは、図6.3による。



- (注) 柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P ※または1.5P ※とする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。  
 なお、P ※、P ※は、特記された帯筋の間隔を示す。

図6.3 帯筋の割付け

6.3 柱の打増し部

- (a) 土に接する柱周囲の打増しは図6.4による。

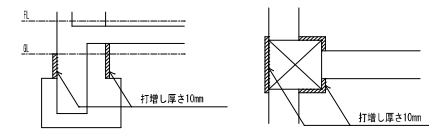
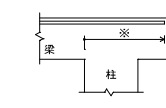


図6.4 柱打増し部

7 梁の配筋

7.1 大梁 (5.1基礎梁以外の大梁に限る) 主筋の継手、定着及び余長

- (a) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項  
 (1) 梁主筋は、連続壁で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には図7.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部等は折り曲げて定着する。



- ※ 40d (軽量コンクリートの場合は、50d) と表3.3のフックなし直線定着長さのうち大きい値とする

図7.1 梁主筋の梁内定着

- (2) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。  
 なお、定着の方法は、3.1(b)(2)による。

上端筋：曲げ降ろす。  
 下端筋：原則として曲げ上げる。

- (3) 段違い梁は、図7.2による。

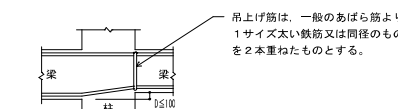
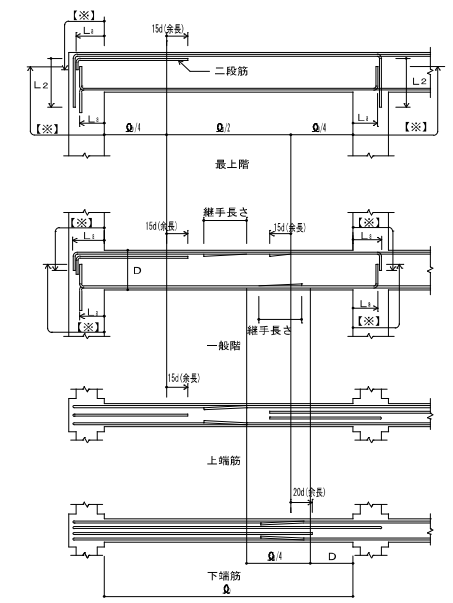


図7.2 段違い梁

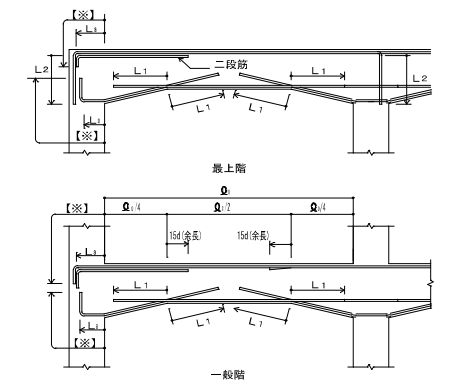
(b) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長



- (注) 1. 継手中心位置は次による。  
 上端筋：中央 ※以内  
 下端筋：柱面より梁せい(D)以上とし、※を加えた範囲以内  
 2. 異形鉄筋の末端部(2)で定めた鉄筋には、フックを付ける。  
 3. 印は、継手及び余長を示す。  
 4. 破線は、柱内定着の場合を示す。  
 ※ 40d (軽量コンクリートの場合は、50d) と表3.3のフックなし定着長さのうち大きい値とする

図7.3 大梁の重ね継手、定着及び余長

(c) ハンチのある場合の重ね継手、定着及び余長

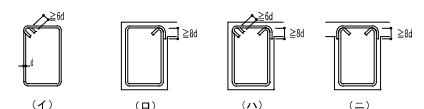


- (注) 1. 異形鉄筋の末端部(2)で定めた鉄筋には、フックを付ける。  
 2. 印は、継手及び余長を示す。  
 3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、のように引き通すことができる。  
 4. 破線は、柱内定着の場合を示す。  
 ※ 40d (軽量コンクリートの場合は、50d) と表3.3のフックなし定着長さのうち大きい値とする

図7.4 ハンチのある大梁の定着及び余長

7.2 あばら筋 (5.2基礎梁のあばら筋以外に限る) の組立の形及び割付け等

- (a) あばら筋組立の形及びフックの位置

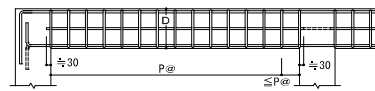


- (注) 1. (イ)形を標準とする。ただし、L形梁の場合は、(ロ)又は(ハ)、T形梁の場合は、(ロ)~(ニ)とすることができる。  
 2. フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合は、L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。なお、(ハ)の場合は床板の付く側を90° 折り曲げとする。

図7.5 あばら筋組立の形

(b) あばら筋の割付け

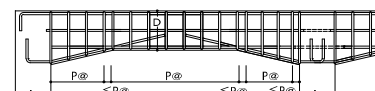
(1) 間隔が一律で、ハンチのない場合



(注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。  
2. 図中のPは、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.6 あばら筋の割付け (その1)

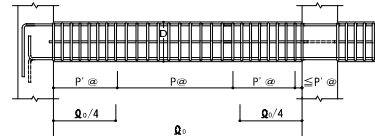
(2) 間隔が一律で、ハンチがある場合



(注) 1. あばら筋は、柱面の位置及びハンチに切り替わる位置から割り付ける。  
2. 図中のPは、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.7 あばら筋の割付け (その2)

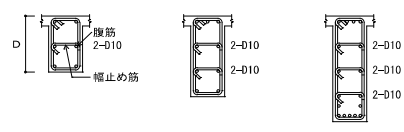
(3) 梁の端部で間隔の異なる場合



(注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。  
2. 図中のP、P'は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.8 あばら筋の割付け (その3)

(c) 腹筋及び幅止め筋



(注) 1. 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とし、柱等へののみこみ長さは図7.6による。  
2. 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000程度とする。

図7.9 腹筋及び幅止め筋

7.3 小梁主筋の継手、定着及び余長

(a) 連続小梁の場合

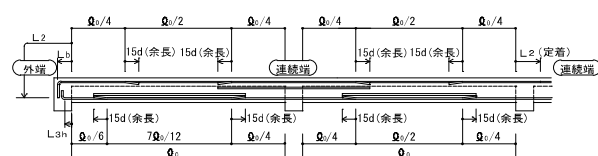


図7.10 小梁主筋の継手、定着及び余長 (その1)

(b) 単独小梁の場合

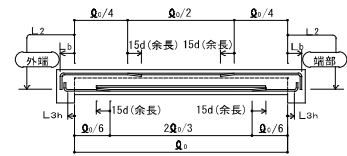
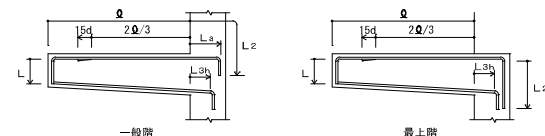


図7.11 小梁主筋の継手、定着及び余長 (その2)

(注) 1. 印は、余長位置を示す。  
2. 梁内の定着筋において梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。  
3. 図示のない事項は、5.1及び7.1に準ずる。

7.4 片持梁主筋の継手、定着及び余長

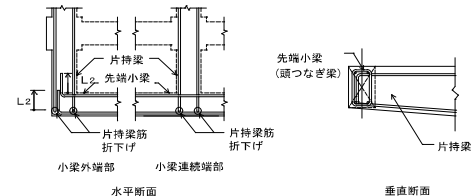
(a) 先端に小梁のない場合



(注) 1. 印は、余長位置を示す。  
2. 先端の折曲げの長さLは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。  
3. 図示のない事項は、7.1による。

図7.12 片持梁主筋の定着及び余長

(b) 先端に小梁がある場合



(注) 1. 図示のない事項は、(a)による。  
2. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。  
3. 先端小梁の連続筋は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

図7.13 片持梁主筋の定着

8 壁及びその他の配筋

8.1 壁の基準配筋

(a) 壁の基準配筋は表8.1により、種別の適用は構造図による。

表8.1 壁の基準配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)
W12	D10-200#シングル	120
W15A	D10-150#シングル	150
W15B	D10-100#シングル	150
W18A	D10-200#ダブル	180
W18B	D10-150#ダブル	180
W20A	D10-200#ダブル	200
W20B	D10-150#ダブル	200

(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

(b) 片持スラブ階段を受ける壁の基準配筋は表8.2により、種別の適用は構造図による。

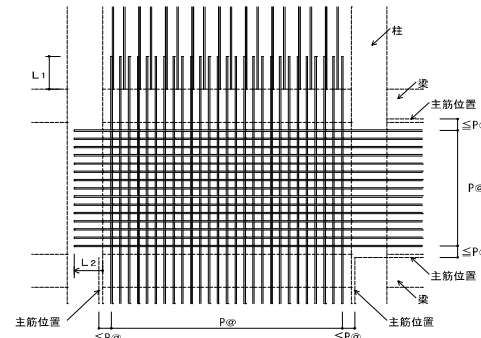
表8.2 片持スラブ階段を受ける壁の基準配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	階段の配筋種別 (表10.1)
KW1	縦筋	D13-200#ダブル	KA1
	横筋	D10-200#ダブル	KA3
KW2	縦筋	D13-150#ダブル	KA2
	横筋	D10-200#ダブル	KA4

(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

8.2 壁の継手及び定着

(a) 壁の継手及び定着の一般事項



(注) 1. 図中のPは、特記された壁筋の間隔を示す。  
2. 壁配筋の重ね継手はL1とする。ただし耐力壁の重ね継手長さは、40d (軽量コンクリートの場合は50d) と表3.1のフックなし重ね継手長さのうち大きい値とする。  
3. 壁配筋の定着長さはL2とする。  
4. 幅止め筋は、縦横ともD10-1,000程度とする。

図8.1 壁の配筋

8.3 壁の交差部及び端部の配筋

(a) 壁の交差部及び端部の配筋は図8.2による。

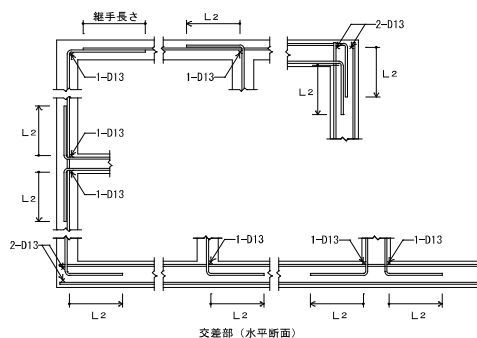


図8.2 壁の交差部及び端部の配筋

8.4 壁の開口部補強

(a) 耐力壁を除く壁開口部の補強筋は、A形は表8.3、B形は表8.4とし、適用は構造図による。

表8.3 壁開口部補強筋 (A形)

壁の種類	縦筋	補強筋	斜め
W12, W15	1-D13	1-D13	1-D13
W18, W20	2-D13	2-D13	2-D13

表8.4 壁開口部補強筋 (B形)

壁の種類	縦筋	補強筋	斜め
W12, W15	2-D13	4-D13	1-D13
W18, W20	4-D13	4-D13	2-D13

(b) 壁開口部補強筋の定着長さは図8.31による。

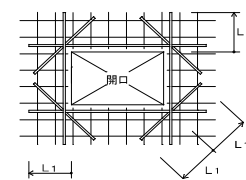


図8.3 壁開口部補強筋の定着長さ

8.5 パラベット

(a) パラベットの配筋は図8.4による。  
(b) コンクリート厚さ、縦筋、横筋の径及び間隔は構造図による。

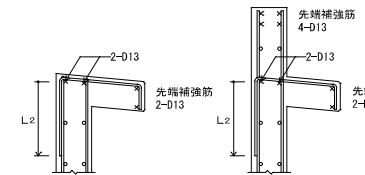


図8.4 パラベットの配筋

9 スラブの配筋

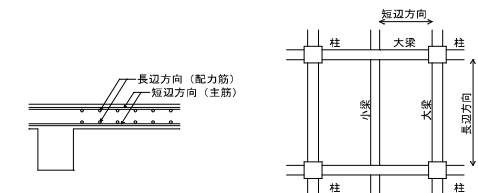
9.1 スラブの基準配筋

(a) スラブの基準配筋は表9.1により、種別の適用及びスラブ厚さは最低図による。

表9.1 スラブの基準配筋 (S形)

配筋種別	短辺方向 (主筋)		長辺方向 (配力筋)	
	全域	全域	全域	全域
S 1	D13-100#	D13-100#	S 8	D10, D13-150#
S 2	同上	D13-150#	S 9	同上
S 3	同上	D10, D13-150#	S10	D10, D13-200#
S 4	D13-150#	D13-150#	S11	同上
S 5	同上	D10, D13-150#	S12	同上
S 6	同上	D10-150#	S13	D10-200#
S 7	D10, D13-150#	D10, D13-150#	S14	同上

(注) 上端筋、下端筋とも同一配筋とする。



(注) 1. 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。  
2. 鉄筋の重ね継手長さは40d (軽量コンクリートの場合は50d) と表3.1の重ね継手の長さのうち、大きい値とする。

図9.1 スラブの配筋

9.2 スラブ筋の定着及び受け筋

(a) スラブ筋の定着及び受け筋は図9.2により、引き通すことができない場合は、図9.3により梁内に定着する。

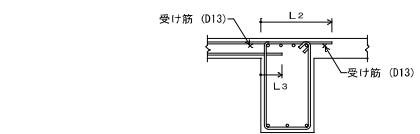


図9.2 スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その1)

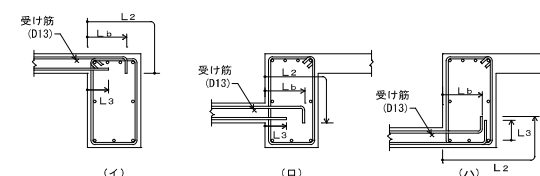


図9.3 スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その2)

9.3 片持スラブの基準配筋

(a) 片持スラブの基準配筋は表9.2により、種別の適用及びスラブ厚さは構造図による。

表9.2 片持スラブの基準配筋 (CS形)

配筋種別	主筋	配筋種別	主筋		
CS1	上	D13-100#	CS5	上	D10-200#
	下	D13-200#		下	D10-400#
CS2	上	D13-150#	CS6	上	D10, D13-200#
	下	D13-300#		下	—
CS3	上	D10, D13-150#	CS7	上	D10-200#
	下	D10, D13-300#		下	—
CS4	上	D10, D13-200#	下	—	
	下	D10-200#			

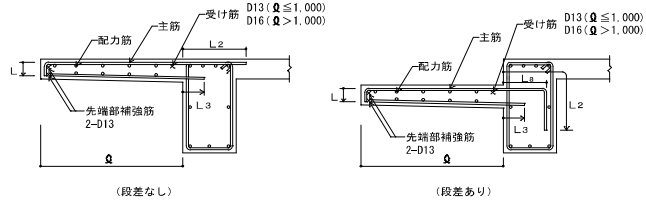


図9.4 片持スラブの配筋 (CS1からCS5)

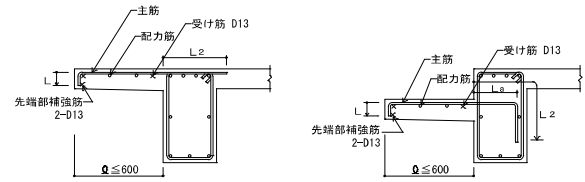


図9.5 片持スラブの配筋 (CS6及びCS7)

(注) 先端の折り曲げ長さは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

9.4 片持ちスラブの先端に壁が付く場合の配筋

(a) 片持ちスラブの先端に壁が付く場合の配筋は図9.6による。

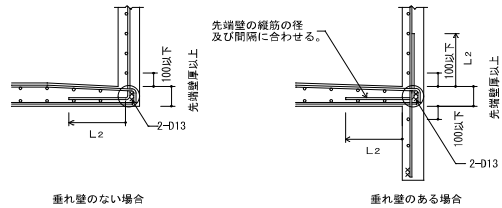
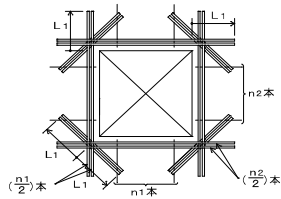


図9.6 先端に壁が付く場合の配筋

9.5 スラブの開孔部の補強

(a) スラブ開孔部の補強及び定着方法は構造図による。ただし構造図において軽微な開孔として特記されたものの開孔補強については下記による事ができる。軽微な開孔の特記は構造図による。

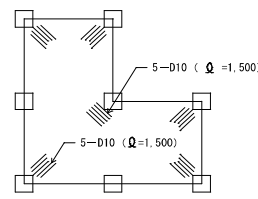


(注) 1. スラブ開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13  $\phi = 2L$  シングルを上下筋の内側に配筋する。  
2. スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

図9.7 スラブ開口部の補強配筋

9.6 出隅部及び入隅部の補強

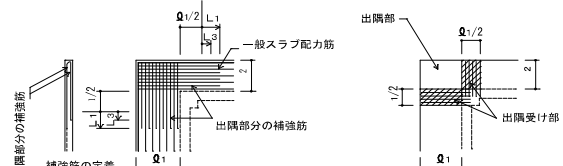
(a) 層様スラブの出隅及び入隅部



(注) 補強筋を上端筋の下側に配置する。

図9.8 出隅及び入隅部の補強配筋

(b) 片持ちスラブの出隅部



(注) 1.  $Q \geq Q_2$  とする  
2. 出隅受け部配筋は柱又は梁に1) 定着する。  
3. 出隅受け部分(斜線部分)の補強筋は構造図による。

図9.9 片持ちスラブ出隅部の補強配筋

9.7 スラブの打継ぎ補強等

(a) 土間スラブの打継ぎ補強 (基礎梁とスラブを一体打ちとして打継ぎを設ける場合の補強) (土間スラブは土に接するスラブでS形の配筋によるものをいう。a>300の場合は別図による。)

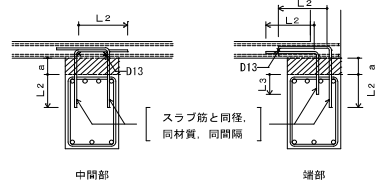


図9.10 打継ぎ補強配筋

(b) 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

(土間コンクリートの補強筋は構造図による。なお、基礎梁との接合部は図9.11による。a>300の場合は構造図による。)

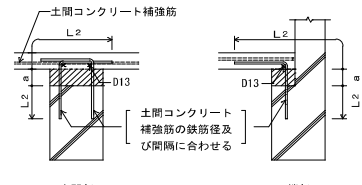


図9.11 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

10 階段の配筋

10.1 片持スラブ形階段の基準配筋

(a) 片持スラブ形階段の基準配筋は表10.1により、種別の適用及びスラブ厚さは構造図による

表10.1 片持スラブ形階段の基準配筋

配筋種別	配筋図	配筋種別	配筋図
KA1		KA2	
KA3		KA4	

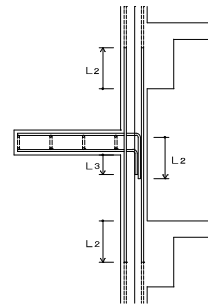


図10.1 片持スラブ形階段配筋の定着

(注) 1. 片持ちスラブ形階段を受ける壁配筋は、8.1(b)による。  
2. 階段主筋は、壁の中心線を超えてから縦に下ろす。  
3. スラブ配筋の縦手及び定着の長さは、表3.3のL3とする。

10.2 二辺固定スラブ形階段の基準配筋

(a) 二辺固定スラブ形階段の基準配筋は表10.2並びに図10.2、図10.3により、種別の適用、スラブ厚さは構造図による。

表10.2 二辺固定スラブ形階段の基準配筋

配筋種別	上端筋、下端筋とも(全域)
KB1	D13-200#
KB2	D13-150#
KB3	D13-100#
KB4	D13, D16-150#
KB5	D16-150#
KB6	D16-125#
KB7	D16-100#

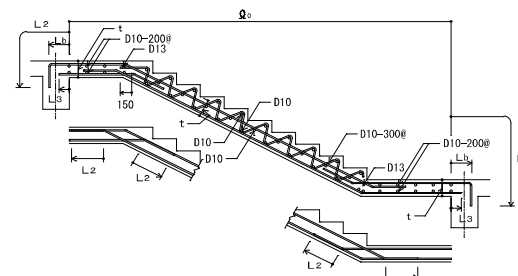
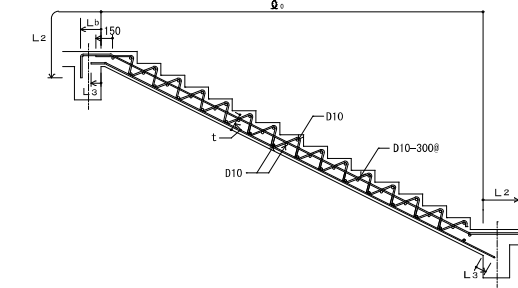


図10.2 二辺固定スラブ形階段配筋 (その1)



(注) 下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

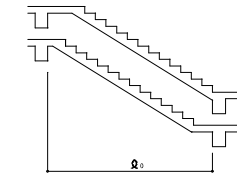


図10.3 二辺固定スラブ形階段配筋 (その2)

11 梁貫通孔その他の配筋

11.1 梁貫通孔の配筋

(a) 梁貫通孔補強筋の名称等は図11.1による。  
(b) 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこの外接円とする。  
(c) 孔の上下方向の位置は梁せいの中心付近とし、梁中央部下端は梁下端より1/3Dの範囲には設けてはならない。  
(d) 孔は、柱面から、原則として、1.5D (Dは梁せい) 以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁を除く。  
(e) 孔が並列する場合は中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。  
(f) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。  
(g) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図11.2による。  
(h) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のもの(軽微な開孔)で鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋出来る場合において構造図に特記されたものは、補強を省略することができる。  
(i) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突き出しは10mm以上とする。  
(j) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13のリング筋を取り付ける。  
なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。  
(k) 溶接金網の新付起点は、縦筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

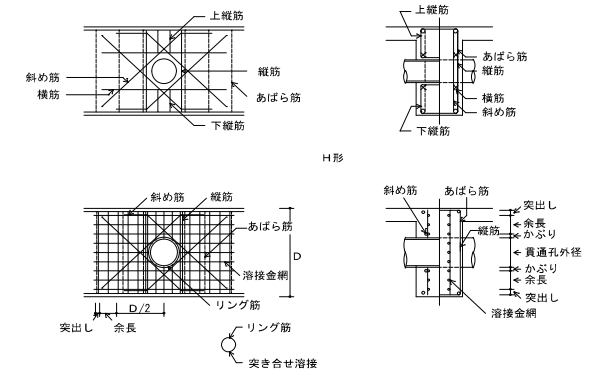


図11.1 梁貫通孔補強筋の名称等

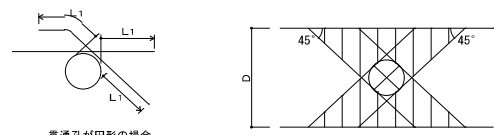


図11.2 補強筋の定着長さ

図11.3 他の開孔を設けない範囲

D	d	d
500 ≤ D < 700	.....	d ≥ 175
700 ≤ D < 900	.....	d ≥ 200
900 ≤ D	.....	d ≥ 250

図11.4 孔の上下方向の位置の限度

11.2 梁貫通孔の補強形式

(a) 梁貫通孔の補強形式は表11.1~表11.3により、種別の適用、筋数等は構造図による

表11.1 H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	なし	なし	なし	なし	
H2	2-2-D13	2-2-D13	なし	なし	
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16	なし	なし	なし	
H5	4-2-D16	なし	なし	なし	
H6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H7	4-2-D22	なし	なし	なし	

(注) ..... は、一般部分のあばら筋を示す。